




授業改革 成果シート

～ 目 次 ～



取組み	ページ
A 授業形態や指導法の工夫	1
B 学び方の工夫と改善	3 4
C 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上	4 8
D 授業実践のための環境整備	9 2
E 家庭学習のあり方と地域連携	1 1 8
F その他	1 2 7

この成果シートは、平成28年3月現在のものです。



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・職員の異動等により、授業の進め方が統一できていない状況がある。

③ ワークショップでの意見や要望

・授業の進め方について共通理解する必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

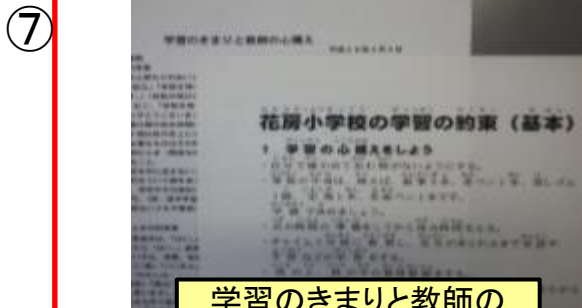
・全職員で授業の進め方を共通実践するために、以前の学習のきまりをもとに、「学習のきまりと教師の心構え(教師用)」と「学習の約束(教師用)」を見直し活用した。

⑤ 成果

・学習のきまりが統一され、児童にとってもわかりやすくなった。

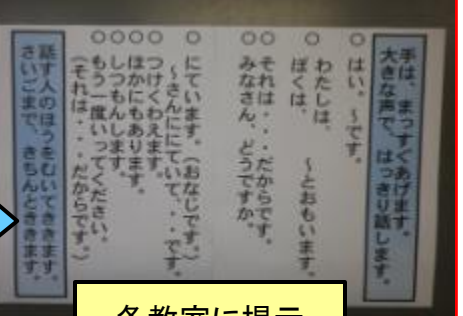
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・作成した内容を会議で共通理解して、授業研究会でも話題にする。



学習のきまりと教師の心構え、学習の約束

この話形を使って発表指導



各教室に掲示

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・教師が教え込む一斉型の授業から改善できずにいた。
- ・子どもたちが学習に受け身で学力向上が課題であった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学び合いによる授業技術の向上を図る。
- ・学び合いの共通スタイルをみんなで作る。



④ 学校改革プランの取組み内容

- ・教師の教え込む授業から学び合いのある授業に改善するために、学び合いの学習方法を示した「まNAVI愛カード」を修正し、積極的に活用するようになった。

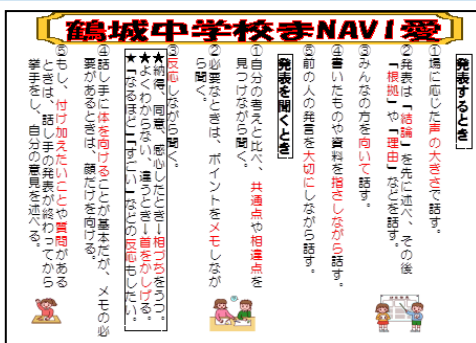
⑤ 成果

- ・教師は授業改善の視点を共有し、意識し合った授業ができるようになった。
- ・生徒の発言・発表が増え、授業参加の質が高まった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・「学び合い」の単元計画及び指導案への位置づけ、授業における「学び合い」の評価を行うようにした。
- ・授業者がそれぞれに自分のスタイルで授業をすると生徒はとまどい受け身になるだけなので、学び合いのスタイルで共通実践を図る。

⑦ 鶴城中版学び合いカード『まNAVI愛』(生徒用)



スタイルを統一することで、生徒も教師もとまどいなく学び合いを目指します。

まNAVI愛 (教師用)

- 一人学びの時間を確保し、自分の意見や考えを持たせて学び合いに入る
- 発表させるには、みんなの方を向いてから発表させる
- 発表させるときは、必ず理由や根拠を言わせる
- 聞く側の生徒には、自分の意見や考えと比べながら聞かせ、必ず反論をさせる。相づちや「なるほど」など
- 聞くときには、メモをとりながら聞かせる
- いつも決まった生徒が発表しないようにする。机間指導しながらよい意見を異つけておいて指名したりもする
- 基本的に発表した生徒が、次の発表者を指名する
- 教師は、口をはさまない。(修正や切り返し、突っ込みなどは別)
- 学び合いの評価やまとめをする。(どう自分の意見が強化されたのか、深まったか、高め合ったり協力できたかなど振り返りをさせる。学び合いが上手だったら、しっかりとほめる)

鶴城中版学び合いカード『まNAVI愛』(教師用)

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・「はくすい学習」(課題解決型学習)の取組みが、共通実践されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・授業展開をスッキリさせたい。
・全校で「はくすい学習」に取り組むことで、力がつくのではないかと。

④ 学校改革プランの取組み内容

・1時間の授業の流れを職員間で共通理解、共通実践するために、「はくすい学習(課題解決型学習)」を基本に、学習課題を明確に提示するようにした。

⑤ 成果

・児童が「めあて」をしっかりつかみ、活動するようになった。
・授業の展開に見通しを持つようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・「は」「く」「す」「い」のカードを板書に活用した。
※はくすいの意味は下欄に記載

⑦ はくすい学習のカードを活用した板書



「く」自力解決の場面で



まずは、自分でやってみよう。

はくすい学習

「は」...はっきりめあてを(つかむ)

「く」...くつきり自分の考え

「す」...すすんではっぴょう ふかめあい

「い」...いかそう、まとめ

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・学校統合に伴い、授業の指導法が統一されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・小規模校や複式学級で学んでいたために、大人数での学習経験がない。
・自ら学ぶ学び方を身に付けさせたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・授業の指導法を統一するために、「10の共通実践事項」を作成し、全職員で共通実践するようにした。

⑤ 成果

・教師が替わっても統一した指導法により子どもたちが学び方を身に付けた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・発達の段階に応じた学習の仕方を、共通実践する。

【天草小の学びの10の共通実践】

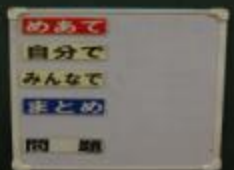
- 1, 授業の始まりと終わりの挨拶
- 2, 挙手の仕方
- 3, 手を挙げるときのつなげ方
- 4, 発表するときの立つ位置
- 5, 発表の仕方
- 6, 友達の発表について反応の仕方
- 7, 自分の名前の書き方、漢字を使う約束
- 8, ノートの書き方
- 9, 学習のめあてとまとめ
- 10, 天草の計算名人

児童も見通しをもって、学習できる。



次は、こんな勉強をするんだ。

小黒板の活用



取組み: 授業形態や指導法の工夫

取組み前の状況

- ・生徒が受け身の授業が多い。
- ・授業中、自分の意見に自信が持てない生徒がいる。

ワークショップでの意見や要望

- ・生徒主体の授業のためのスキルアップをする時間が教師にない。
- ・生徒がもっと活発な意見を言う授業があってもいいと思う。

学校改革プランの取組み内容

- ・生徒主体の授業形態を共通実践するために、授業公開週間(年2回)を設定し、「アクティブラーニング」(AL)の実践のための教職員の日常的な意識向上を図った。

成果

- ・生徒主体の授業形態について職員間で話す機会が増えた。
- ・ペアワークやグループワークなどの授業形態が増えた。

成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・スキルアップ週間中、一人一回の授業公開を徹底する。
- ・職員にALに関する情報を継続的に提供していく。

授業公開シート	
授業日時	2024年10月10日 10:00-11:00
授業科目	英語
担当教員	山田 太郎
観察者	佐藤 花子
観察内容	生徒主体の授業形態の実践状況
評価	生徒の発言が活発で、授業の進捗がスムーズであった。
改善点	一部の生徒の発言が聞き取れなかった。

授業公開シートで省察

その考え方には、僕も賛同するよ!!



この考え方はどうかかな?

学び合う生徒たち
活発に意見を交わす

スキルアップ週間

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・学校統合に伴い、学び方の指導が統一されていない。
- ・「10の共通実践事項」を作成したが、徹底にまで至っていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・「10の共通実践事項」を活用することで、学び方を身に付けさせたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・「10の共通実践事項」の中から、各月の共通実践事項を一つ決めて、全校で共通実践するようにした。

⑤ 成果

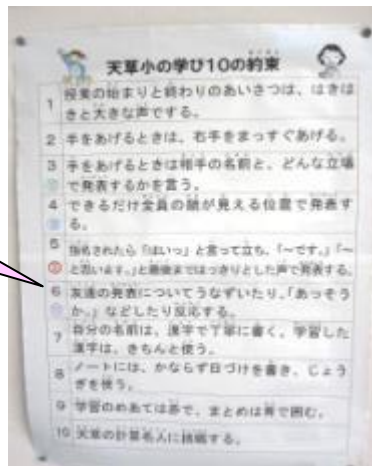
- ・これまで以上に「10の共通実践事項」について、共通実践しようとする意識が高まった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・職員室や各学級に掲示することで、教師だけでなく、児童の意識化を図る。

⑦ 天草小10の共通実践事項

今月は、この事項を中心に取組
学び方を身に付けさせよう。



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・生徒が学習に対して受け身で意欲が高まらず、学習が定着しないという課題があり、職員間に危機感があった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・自ら学ぶという生徒の意欲を高める。
- ・話し合い活動や課題解決学習の共通スタイルを確立する。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業展開を統一するために、課題解決学習のマニュアルを作成し、職員・生徒共に毎時間の授業のゴールが明確になるようにした。

⑤ 成果

- ・教師は授業改善のポイントを共有し、学び合いを意識した学習展開を工夫するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業の流れについてのカードを作成し、視覚化を図った。
- ・職員の意識改革が必要。

⑦



① 取組み: 指導形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・学校としての授業の進め方が統一できていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・既習事項の確認の時間が必要である。

④ 学校改革プランの取組み内容

・授業導入時に、フラッシュカードやICT教材を活用して、既習事項の確認をするようにした。

⑤ 成果

・児童が興味を持って授業に参加することができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・フラッシュカードの活用の仕方や作成の仕方を示し、統一して作成して、共有フォルダにストックした。

⑦

正方形の面積を
求める式は？

1辺 × 1辺

面積学習時の
フラッシュカード
(パワーポイント
で作成)

1辺が1cmの
正方形の面積は？

1cm²

① 取り組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取り組み前の状況

- ・学年差、個人差に応じた手だての工夫が十分でない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の在り方を見直していきたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・「天草小の授業文化」(教師用)を作成し、教師がユニバーサルデザインの視点に基づいた学習を進められるようにした。

⑤ 成果

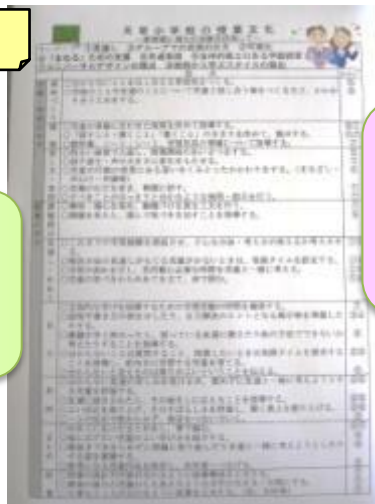
- ・授業において、教師が常にユニバーサルデザインの視点を意識するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・「天草小の授業文化」を作成して、活用できるようにした。
- ・活用することで、今後さらに内容の精選をする。

⑦ 天草小の授業文化

授業構成、発問や板書の工夫にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。



ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、児童は見通しをもって授業に臨むことができる。

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② **取組み前の状況**
 ・児童の学び方が校内で統一できていない部分がある。

③ **ワークショップでの意見や要望**
 ・学び方について、校内で共通理解、共通実践を図りたい。


④ **学校改革プランの取組み内容**
 ・児童の学び方を全校で統一するために「三玉小指導の手引き」を作成し、日々の授業や校内研修での職員間チェックに活用した。

⑤ **成果**
 ・学び方が統一され、どの学年でも共通実践できた。


⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**
 ・基本的な実践事項にしぼって実践を進めていく。

⑦


児童の姿	1	次の学習課題をきいて読み開始
	2	構想, チャイムの会場で発表
	3	関係のないおしゃべり手遊びをしない
	4	フォロバタビンの役割 (書く態度, 足を地面につける, 視線をのぼす)
	5	筆跡の中途をそろえる
	6	下じきを握る
	7	ひじをまっすぐ伸ばして筆字する, 中腰にかき入れる。
	8	あてられたら「はい」の返事をして立つ
	9	読解まで (です, ます) しっかり話す。
	10	話す人のほうをむいて聞く (状況に応じて)
	11	友だちの発表に対して反応し, 友だちの発表を大切にす
指導者の	1	チャイムの会場で開始
	2	フラッシュカードで前時の学習内容の確認
	3	本時の目標の提示の工夫
	4	全員筆字できる
	5	具体物の準備
	6	初期指導と評価, 支援
	7	発表者への適切な切り返し, 評価
	8	声の大きさ, テンポ, 評価の工夫
	9	紙書をしていないにわかりやすく
	10	発表がまとめる時間の確保
	11	評価・習熟問題の活用



フラッシュカードの活用



評価問題



発表の仕方

三玉小指導の手引き

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・児童の基礎的な学習態度が定着していない。
- ・従来の「学習のルール」の指導が徹底されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・「学習のルール」を見直し、学校全体で取り組む必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・これまであった「学習のルール」を修正し、各教室に掲示し活用することで、全職員で共通理解し、徹底指導するようになった。

⑤ 成果

- ・「学習のルール」が定着しつつあり、学習態度が向上している。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・学習前、学習中の基本的なルールを徹底指導している。

⑦

がくしゅうのルール

- きょうかしょ、ノート、えんぴつをつえにだします。
- えんぴつをたいておきます。
- トイレをすませておきます。
- チャイムがなるまえに、せきにつきます。

- せすしをのびします。
- さくときは、はなす人を見て、おしゃべり控えます。
- はっぴよのきまり「はっぴよします。」「はい。」
- みんなといっしょに「学び合う」きもちがたいせつです。

学習のルール

- 教科書、ノート、えんぴつをつえに出します。
- えんぴつをたいておきます。
- トイレをすませておきます。
- チャイムがなる前に、席につきます。

- 音すしをのびします。
- 聞くときは、話す人を見て「目・耳・心」で聞きます。
- 発表のきまり「発表します。」「はい。」
- みんなといっしょに「学び合う」きもちが大切です。

各学級に掲示し、学習前・学習中に指導しながら、徹底を図る。

「説明の仕方」、「声の大きさ」についてもあわせて指導している。



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・話す・聞くなどの学習態度について、系統的な指導を続けていく必要がある。

③ ワークショップでの意見や要望

・集中して学ぶ児童を育てたい。
・低・中・高学年ごとに学習態度の指標や発言スタイルを示してはどうか。

④ 学校改革プランの取組み内容

・児童の学び方を統一するために「発表の約束」や「進級パスポート」を作成し、全職員で共通理解し徹底指導するようにした。

⑤ 成果

・授業中や全校集会等で、以前に比べ、児童の発表が活発になった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・共通実践事項の取組み方について、互いの実践を参考にしながら指導者の意識を高めていく。

⑦ 小坂小 進級パスポート

	低学年	中学年	高学年
発表の約束	※声をはきはきはやくて聞き手を見ます。 ◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	※声をはきはきはやくて聞き手を見ます。 ◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	※声をはきはきはやくて聞き手を見ます。 ◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。
発表の姿勢	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。
発表の時間	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。
発表の場所	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。
発表の回数	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。
発表の回数	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。	◎「聴きたい言葉」を聞き取ります。

低・中・高学年で系統的な指導を行っていく

児童集会で相手を見て話す・聞く児童の姿



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・それぞれの担任が自分のオリジナルの授業の展開を行っていた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・全校共通の学び方を統一したい。
- ・クラスによって、授業スタイルに違いがあるのは、児童にとって戸惑いがある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・新たに「学校共通の学びのスタイル」を確立させ、校内研修を活用しながら、全校で共通理解・共通実践を行うようにした。

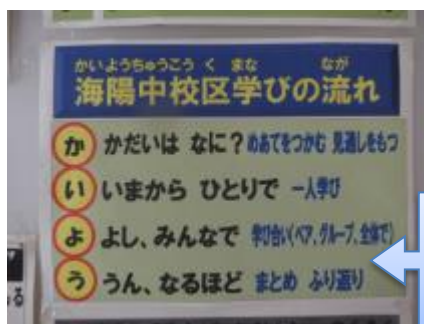
⑤ 成果

- ・全クラス同じような学習スタイルで授業を流すことができた。
- ・専科・少人数の授業であっても授業の流れが変わらないので、児童が集中出来るようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・校内研修と連携協力し、全職員で共通理解・実践ができた。
- ・掲示物を使ったことで、UD化が図られた。

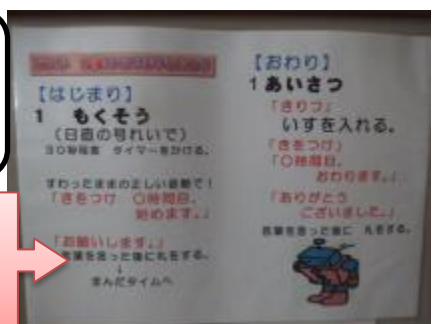
⑦



掲示物を作成し、学習の一連の流れを全校で統一している。

海陽中校区で取り組む授業スタイル

授業始まりの黙想や万田タイム



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・教師主導型の授業から脱却できずにいた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・生徒が意欲的・積極的に学習に取り組めるような授業にしたい。
- ・生徒の学力を向上させたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

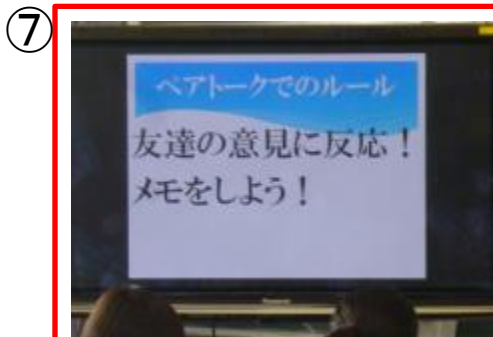
- ・生徒が能動的に学ぶことができるようになるために、「上手な話し合いの仕方」、「上手な話しの聞き方」シートを作成し、全職員で共通理解を図り、協働的な学びを取り入れるようにした。

⑤ 成果

- ・教師の話す時間が削減され、生徒が能動的に学べるようになった。
- ・協働的な学びの活動に対して、充実感を得る生徒がでてきた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・各教科で「自力解決から協働的な学び」という流れを意識した授業を構築している。
- ・ペアトークや話し合い活動を取り入れた授業を実践している。



← ペアトークのルールを大型テレビで提示

活動時間2分程度の → ペアトーク



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・集中して学習にのぞめない児童が多い。
- ・発表する児童が固定化されている。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・落ち着いた状況で授業をスタートさせたい。
- ・全ての児童が活発に挙手する授業にならないか。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業の導入部分に児童全員が自信を持って発表できる場面(万田タイム)を設定し、全校で共通実践するようにした。

⑤ 成果

- ・自信を持って発表できる児童が増えた。
- ・児童も教師も集中して心地よく授業をスタートできるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・算数のかけざん九九や社会の地図記号など、児童が挙手をして発表する場を設けた。
 - ・本時の学習につながる発問の工夫もしている。
- 全職員で実践を紹介し合い、今後も改善しながら取り組みを継続する。

⑦



授業導入時の「万田タイム」で全員挙手をして発表している様子。



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・授業で「めあて・まとめ」カードを用いることが、すべての授業で共通した取組だった。

③ ワークショップでの意見や要望

・本時の流れを生徒に知らせることが、見通しを持って学習することにつながるだろう。

④ 学校改革プランの取組み内容

・岱明中学校版「授業の流れ」を作成し、授業展開を統一して共通実践ができるようにした。

⑤ 成果

・授業の流れだけでなく、板書や学習規律の点でも共通して取り組むことができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・校内研修で、授業のUD化の視点から「何が必要か」を出し合い、意見を共有し、その中から共通して取り組む事項をピックアップした。
・授業の流れのキーワードは「導入の工夫」、「自力解決及び協働的な学びの場の設定」、「ふり返りの充実」

授業のスタンダード(教師用)の一部

⑦ 「ひとり学び」活動...

○この活動は学び合いを充実させる上でとても大切です。自分の考えを持たせて学び合い活動に入りましょう。この場面で個に応じた指導を積極的に行いましょう。

「学び合い」活動...「学び合い」カードの活用をお願いします。

○班による話し合い活動や討論以外にも、ペアトーク、教え合い(ミニ先生の活用)など様々な「学び合い」活動を取り入れてください。

○話し合いでは「上手な話し合いの仕方」を用います。

○「学び合い」活動によって、生徒に達成感や充実感を味わわせましょう。

まとめ・ふり返り活動...生徒の活動として設定し、充実を図りましょう(冬休み明けの重点目標です)。

○生徒自身が振り返るための時間を確保し、振り返らせる方法を考えましょう。

○学習の目標に対する自分の高まりを生徒が自己判断できるよう、明確な目標を立て、達成できたかの判断基準を用意しましょう。

○可能な教科は、本時の学習を定着させるための課題を取り入れましょう。

生徒に示す授業の流れの一例

今日の授業の流れ

1 めあて・課題の確認

↓

2 「ひとり学び」活動

↓

3 「学び合い」活動

↓

4 まとめ・ふり返り活動

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・学習過程(めあて、自力解決、共同解決、まとめ)が統一して行えていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・どの教員であっても同じ学習過程で授業ができるようにしていきたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・統一した学習過程にするために、学習過程を示すカードを作成し、全学年統一した学習の流れで授業を進めるようにした。

⑤ 成果

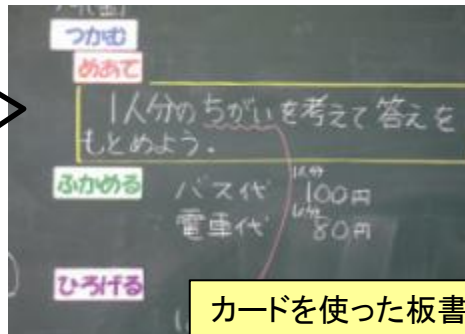
・全職員が授業の流れを意識し、全学年で同じ学習過程で授業が進められるようになった。
・授業中の児童の発表回数が増えた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・「学び合い」のある授業を作るために、学習スタイルの共通理解を図り、研究授業を行う。

⑦

カードを使うことで、児童にとっても授業の流れが分かりやすくなりました。



つかむ
↓
ふかめる
↓
ひろげる
↓
まとめる

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・授業中の45分間全員が集中して授業に参加できていない児童の姿が見られる。

③ ワークショップでの意見や要望

・児童が集中し、理解できる授業を行いたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・本時の学習メニューを授業の導入時に提示し、板書も学習過程がわかるカードを掲示することで、児童が見通しを持ち学習できるようにした。

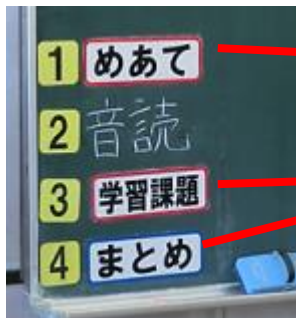
⑤ 成果

・視覚化したことで、児童が見通しを持ち集中して学習できるようになった。

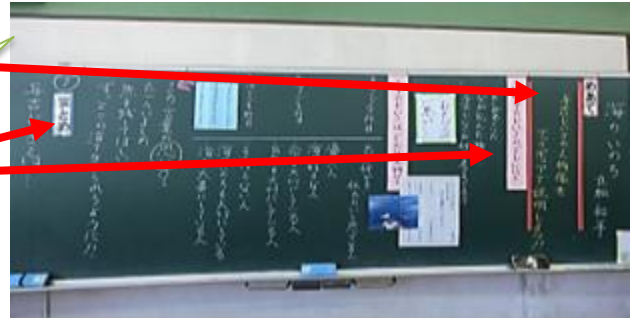
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・学習の目標や活動をシンプルにする。
・学習メニューを提示し、安心して学習に取り組めるようにする。

⑦



学習メニュー
を活用した
板書



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・学習と生活が結びついていなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・もっと児童の考えを学習で生かしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・児童の考えが学びに生かされるように、単元の余剰時間を利用し、教科と実生活が関連した「はくすいチャレンジ」問題を開発し、取り組むようにした。

⑤ 成果

- ・学習したことを生活に生かそうとする児童の主体的な姿が見られるようになった。
- ・教師が学びを生活にいかすような問題作りを意識するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・校内研のテーマとして設定し、職員の共通理解が図られた。

⑦ はくすいチャレンジ学習の様子



3年生の算数の授業

「円」の学習の最後に、「運動会のダンスの練習に必要な円を描こう。」という体験学習を行った。半径をキープしながら、班で協力し、たくさんの円を描いた。

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・義務教育の内容が定着していない生徒が多い。
(漢字が読めない 計算ができない)

③ ワークショップでの意見や要望

- ・基礎学力向上のための普通科目の充実。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・中学校卒業程度の学力定着を目的として、SHR前にチャレンジタイムを新設し、学力向上を図るようにした。
(火曜...国語、水曜...数学、木曜...英語)

⑤ 成果

- ・県下一斉テスト等において、過年度比較で点数が伸びている。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・今年度は1, 2年生のみの実施。次年度は3年生も実施し、学校全体で取り組む。

⑦ 単位数の増加[数学(1年)]

商業科 3単位 → 4単位 工業科 3単位 → 5単位
⇒授業内でも学び直しが可能に。

国語→

第1ステージ ① (5月1日)

[A] 日本語の意味に合う英語を選んで番号で答えなさい。

- (1) 小さい
①big ②little ③large ④high
- (2) (数が) ほとんどない
①much ②few ③many ④little
- (3) 学生
①watch ②find ③see ④student
- (4) 人間の
①large ②child ③human ④group
- (5) 教師
①student ②human ③teacher ④person

7 □ にあてはまる数や単位を書きなさい。

(1) 60分 = □ 時間 (2) 1時間 20分 = □ 分

(3) 1日 = □ 時間 (4) 120分 = □ 時間

(5) 100分 = 1 □ 40 □

↑英語

↑数学

- ① 落葉 () する木、
- ② 花火の () 火薬、
- ③ 薬品 () を使う、
- ④ 守 () 衛をかためる、
- ⑤ 留守 () 電
- ⑥ 文豪の () 政見
- ⑦ いわが () 実 () る
- ⑧ 晴 () 雨 () リヤスモ
- ⑨ ずっと () 安心 () する
- ⑩ 次の保鮮期の漢字の読みをひらがなで書け

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・知識伝達型の授業が中心となっており、意欲や関心をうまく引き出せていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・生徒たちが自主的に進んで学習できるようにしたい。
- ・生徒同士で学び合うようにしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・アクティブ・ラーニングの共通実践のために、校内外の研修会、さらに公開授業も実施し、教職員の意識向上を図った。

⑤ 成果

- ・グループ学習を取り入れる職員が増えた。
- ・生徒間で教え合う様子が見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・実技中心の教科や少人数で指導にあたっている教科などで検証授業の実施。
- ・情報を継続して提供する。

⑦

授業デザイン (生物基礎/情報管理科2年)

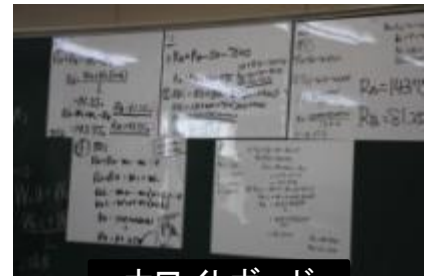
平成27年度1学期20日(水) 4限
場 所: 第1講義室
担当教員: 情報管理科2年名
授業名: 卒業、卒業、卒業

1	導入のテーマ	「生徒が組織に馴染むための仕組みを説明しよう」
2	本時のねらい	授業と二酸化炭素の循環のしくみを学ぶ。特に、ヘモグロビンの特性と酸素輸送能力を合わせて学ぶことにより、どのようにして肺から各組織まで酸素が運ばれ、受け渡されるのかを理解する。また、酸素輸送能力の読み取りを通して論理的な思考力を高める。
3	教材・資料等	教科書: 渡辺浩平『高校生物基礎』 3章 生物の体内環境とその維持/1節 体内環境 ①呼吸と体内環境 問題集: 渡辺浩平『高校生物基礎ワークシート』 補助教材: 自作の授業了シート、問題シート
4	授業の流れ	①本時の学習内容を確認する 【全体】 3分 1分/1人/1組 ②本時の学習事項の説明 【全体】 15分 3分/1組/電子黒板/1人/1組 ③問題をに取り組み 【グループ】 20分 2分/1組 ④問題の答え合わせをする 【グループ】 5分 1分/1組/1人/1組 ⑤確認テスト 【個人】 5分 問題シート ⑥本時の振り返り 【全体・個人】 2分 1分/1人/1組
5	参観のポイント	①心臓補助機に利用し、効果的に内容説明を行う。グループで討論し、互補での学び合いを通して、答えを導き出す。それにより、学習内容の定着や理解を高める。
6	教師の役割	説明・発問・発言・評価
7	準備物	電子黒板、アクリル板、黒板消し、1分タイマー

←授業デザイン



グループ学習



ホワイトボードの活用

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・保小中連携協議会において授業参観を計画するが、一部の職員が授業を見にくい程度で、深まりがなかった。
- ・学習態度づくり一覧表を作成したが十分に生かされていない。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・学び方の指導を系統化するために、鶴城中学校区の各学校(小学校2校、中学校1校)の学び方マニュアルを持ち寄り、中学校区で学び方を統一するようにした。

⑤ 成果

- ・同じ学びのスタイルを追究していくことを確認することができた。
- ・熱心に討議がなされ、児童生徒の課題、重点指導目標が確認できた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・実践の検証を行うために、小学校1回、中学校1回の研究授業を行い、合同研修会を開いた。
- ・ワークショップ形式の事後研究会で、保小中のメンバーがバランス良く入る班構成にした。
- ・「学習態度」の育成に討議の柱を絞ることで、保育園からも活発に意見が出された。

⑦



鶴城中学校区小中連携事業「学習態度づくり一覧表」(教師用)

	保育園		小学校			
	0~2歳	3~5歳	1・2年生	3・4年生	5・6年生	1・2
書く			○絵巻を正しく持つ ○字の数の筆順が正しく書ける ○正しい書き方 ○下書きを使う ○ノードに日付を入れる	○空いたスペースを使う	○自分の言葉で、わかったことをノートにまとめる ○書く書く	○見やすい点ごとにまとめる
聞く	○話をしている人を見る	○座って話しかける	○話す人の目を見て聞く	○人の話に反応する	○言葉に対してメモを取るのびら聞く	○発言
話す	○手振り、指さし、片言などで自分の思いを伝える	○自分の思いや考えを言葉で伝える	○「です」「ます」をつける話す ○大きな声ではっきり話す ○聞いている人の方を見て話す	○場に応じて声の大きさで話す ○自分の意見の簡単な理由が言える	○ていねいな言葉で話す ○自分の考えの根拠が言える	○自分の ○根拠を
読む			○本を両手で持って読む ○読書点に気をつけて読む	○すらすら読む	○聞き取りやすい声の大きさ・スピードで読む	○自己研
			○本の探検の準備を	○チャームの台詞で	○チャームの台詞で	○読書性

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・授業形態の共通理解・共通実践が図られていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・学校総体としての授業スタイルが確立できていない。

④ 学校改革プランの取組み内容

・児童も教師も見通しを持って学習に取り組むことができるようにするため、「めあて」、「一人学び」、「学び合い」、「まとめ」、「ふり返り」という授業形態に統一した。

⑤ 成果

・全職員が、児童が考えたり、話し合ったりする時間や場を意図的に確保するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・ふり返りまで確実に行うための教材研究や時間配分が必要である。

⑦



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・話し合いにおける児童の考えの広がりや深まりが見られなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・互いの考えが深まったり、広がったりするような話し合いについて、更に研究を深めたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・授業中の話し合いを活性化するために、学習課題の提示や教師からの児童への問い返し、ゆさぶりなどの発問を工夫・精選して授業を行うようにした。

⑤ 成果

・児童の考えの深まりや広がりが見られるようになり、話し合いが活性化するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・一人学びの時間の個に応じた指導を行いながら、すべての児童に学び方を身に付けさせる必要がある。

⑦



① 取組み授業形態や指導法の工夫:

② 取組み前の状況

・話し合いにおける児童の考えの広がりや深まりが見られなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・互いの考えが深まったり、広がったりするような話し合いについて、更に研究を深めたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・読む力や伝え合う力をはぐくむため、「主張」、「根拠」、「理由づけ」を明確にした話し合いを行わせるようにした。

⑤ 成果

・授業中の発言の仕方がわかりやすくなり、積極的に発言しようとする児童が増えた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・ワークシート等の教材を工夫して、「主張」「根拠」「理由づけ」を考えやすいようにした。

⑦



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・学習規律の指導が、各学級ばらばらで統一されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学習規律の指導について、統一する必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・学習規律の指導の統一や子どもに良い授業態度のモデルを示すために、「模範授業」を実施し、学びの姿を共有した。

⑤ 成果

- ・学習規律について、共通理解をすることができ、その後の指導に生かすことができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業に必要なICT機器を体育館に準備したこと

⑦ 「模範授業の様子」



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・知識伝達型の授業から協同的な学びへの移行はあるが、なかなか浸透しない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・取組みに対する具体的な指針がほしい
- ・協同的な学びについての知識や技術を学びたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・わかる授業を展開するために、「鹿本商工版アクティブ・ラーニング」という基準を作成し、全職員で取り組むシステムを構築した。

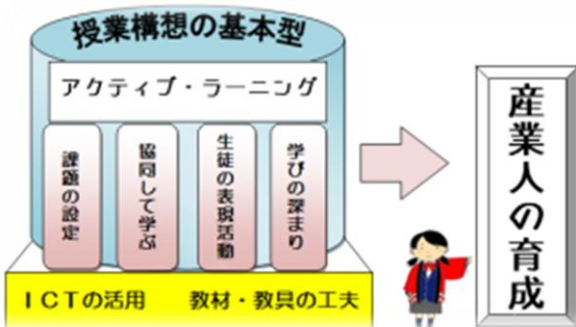
⑤ 成果

- ・実践する職員が増え、授業改善に対する職員の意識向上が図られ、授業改善に繋げることができた。
- ・生徒間での学び合いの機会が増え、授業での浸透がみられた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・まずは授業実践してみる機会を増やすことが重要。
- ・職員間での情報共有。
- ・大きく4つの柱をつくり、授業づくりの指針を決めた。
- ・先進校の取組みと成果について協同的な学びに関する職員研修を実施した。

⑦



Step 1 課題の設定

その授業における目標や生徒につけたい力を達成させるための課題を設定する。

Step 2 協同して学ぶ《ペア・グループ等》

まずは「個」で考え、自分の意見や視点を持ち、他者と協同して学ぶ。

Step 3 生徒の表現活動

協同して学んだことを発表する、書いてまとめる、聴いて質問する、アイデアを形にする。

Step 4 学びの深まり《自己評価・相互評価・ふり返り等》

他者の意見や視点の受容、自分の意見や視点の変化・修正、新たな意見や視点を付加する。

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・教師主導型の一問一答の授業になりやすい。
- ・表現力や主体性に課題

③ ワークショップでの意見や要望

- ・意欲や主体性が高まるめあてのもたせ方を知りたい。
- ・学びあいのある授業をしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・子どもの主体性を高める授業を行うために、子どもの「おや?」「どうして?」「やってみたい。」という問いを引き出す課題提示をし、そのつぶやきをもとにめあてを設定したり、子どもの意見を指導者が問い返し、他の児童に考え表現させながら共有する場をつくったりした。

⑤ 成果

- ・めあてが精選された。
- ・児童のつぶやきや表現の場が増えた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・視点を絞った模擬授業やワークショップによる事後研での効果的な検証。
- ・めあてのもたせ方や学びあいのさせ方について、研究授業を通して、指導者の意識が高まってきている。

⑦

資料3 考えを共有させるための教師の指導法 - 1 授業の授業でどんなことを共有する(話し・聴く・問い返す) 場が生まれるか

共有させるための指導	方法	教師の言葉かけ(聞き返し)	主体的な児童の反応
A 意見を言い換えさせる	友達の考えを自分の言葉で説明させる	「～さん説明と違ったのかな。」	「自分の言葉で話します。」
	難し處と言葉を確認させる	「(声) であらうだろうか。」 「式とびつたりの図をつくらう。」	「同じです。」 「図で書きます。」
	聞き返させる	「この図はどんな意味かな。」 「どうしてこの式にしたのかな。」	「式のわけが分かります。」 「～さんの考えが分かります。」
B 友達のを考えを譲らせる	聞き返させる	「(声) どう考えたか分かるかな。」 「この図はどんな意味かな。」	「～さんは… 式が違ってます。」 「図のわけが分かります。」
	聞き返させる	「どうしてこんな図になったのかな。」 「(声) どう考えたか分かるかな。」	「～さんの考えが分かります。」 「～さんは… 図が違ってます。」
	難し處を確認させる	「どう考えたのかな。」	「どう考えたのかな。」
C 考えを見聞させる	比較したり、よさを探したり、学びを確認させたりする。	「～さんの考えのどこが分かったのかな。」 「(難し) との「ちがいはどこだろう。」 「どの考え(方法)でやればいいのか。」	「ちがうところが分かります。」 「～さんの考えのいいところは分かります。」



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・朝の活動が担任裁量で行われており、学校全体としての統一感がなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・研究内容に即した朝活動の取組を行いたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・児童の読む力や伝え合う力をはぐくむため、朝活動として、「音読タイム」、「シンキングタイム」、「トーキングタイム」を取り入れた。

⑤ 成果

・朝活動を学校全体で統一し、国語科の授業との関連が図られ、児童が根拠や理由づけを意識しながら考えたり、話し合ったりするようになった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・シンキングタイムで活用する資料の精選や話合いのさせ方について十分に検討する。

⑦ 音読タイム



シンキングタイム



トーキングタイム



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

- ・子どもと向き合う時間は確保したが、その向き合い方、関わり方が不十分である。
- ・朝の学習については、担任裁量で計画することが多かった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学校全体で、積極的に関わる取組にできないか。
- ・昼休み後の業間タイムでやっていた学力充実の時間を確保できないか。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・学力向上のために「朝学びタイム」を朝の時間に設定し、学校全体で積極的に子どもと関わるようにした。

⑤ 成果

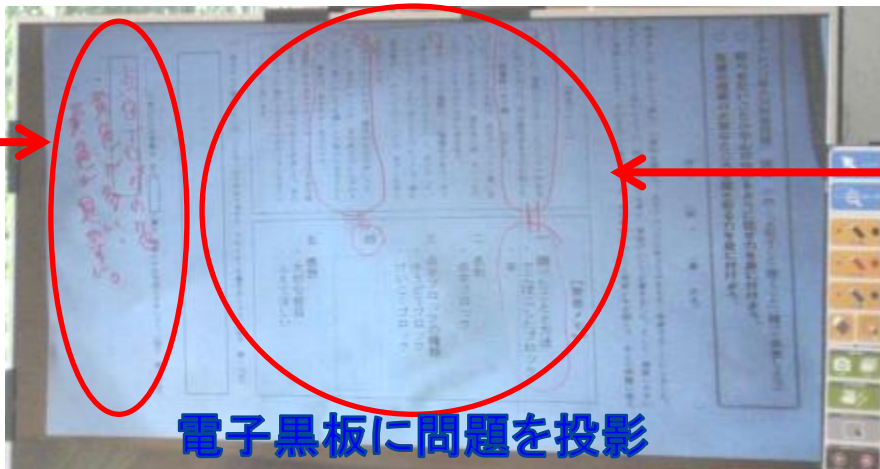
- ・学力向上に関する学校課題である「基礎学力向上」「活用問題への対応」等に学校全体で取り組むことができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・15分間では十分な取組みはできないので、再度時間を生み出す工夫を考える必要がある。

⑦

解答例



問題のとりえ方
・考え方

電子黒板に問題を投影

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・各種テストに向けての取組が、全体的に消極的である。

③ ワークショップでの意見や要望

・全校(生徒も教師も)で取り組んでいこうと意識を高めることが必要。

④ 学校改革プランの取組み内容

・定期テスト前や県学力調査の前などに学力強化旬間を設定し、朝自習や授業の冒頭で、課題対策プリントや過去問題に取り組ませるようにした。

⑤ 成果

・各種テストの定着率が向上した。
・全校で取り組むことで、テストに対して消極的だった取組が積極的に取り組むようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・いま学校全体で取り組みたいことは何かを、できるだけ絞り込んで単純化する。
・学習面だけでなく「中体連完全燃焼旬間」など行事の際も強化旬間を設ける。

学力向上旬間
十一月十八日～二十八日
一・二年 熊本県学力調査
三年 高校入試
に向けてがんばろう!

教室や廊下に掲示し意識を高める。

全校で1つのことに向け全力投球です!



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・児童がコミュニケーションを苦手とし、自分の思いをうまく伝えられず、トラブルとなる状況がある。

③ ワークショップでの意見や要望

・学校総体として、ソーシャルスキルトレーニングに取り組みたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・毎月1日を、各学級で、「ソーシャルスキルトレーニング」を行う「きのえの日」と設定した。

(例)「こんな時どうする？」...ワークシートを配布し児童が記入。その記入したシートをもとに演習等を行う。

⑤ 成果

・児童のコミュニケーション能力の育成につながった。
・児童間のトラブルが減少した。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・毎月1日と設定したことで、学校総体として取り組むことができた。
・各学級に、ソーシャルスキルトレーニングの本を配付したこと。

⑦ 購入したソーシャルスキルトレーニングの本
「SSTワークシート(社会的行動編)」
「SSTワークシート(自己認知・コミュニケーションスキル編)」

① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・話し合いにおける児童の考えの広がりや深まりが見られなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・互いの考えが深まったり、広がったりするような話し合いについて研究を深めたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・読む力や伝え合う力をはぐくむための方策を校内研修で議論を重ね、「主張」、「根拠」、「理由づけ」を明確にした話し合いを行わせるようにした。

⑤ 成果

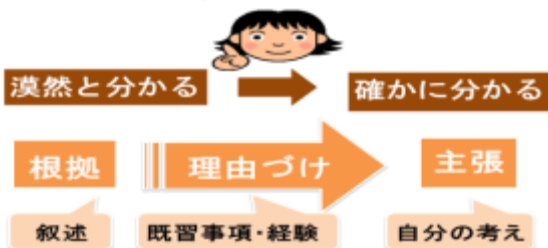
・積極的に発言しようとする児童が増えた。
・児童の考えの深まりや広がりが見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・話し合いを活性化するため、学習課題の提示や切り返し、ゆさぶりなどの発問を工夫・精選して授業を行うようにした。
・個に応じた指導の徹底を図ることで、すべての児童に学び方を身に付けさせる必要がある。

⑦

学びの3セット



学びの場の工夫

課題の工夫

ゆさぶりの発問

なぜ、ふるしき売り場ではカードが使われているのだろうか？

本の方が詳しく書かれているから、いいのではないかな？

① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

・職員の異動等により、児童の学び方が校内で統一できていない部分がある。

③ ワークショップでの意見や要望

・児童の学び方について共通理解する必要がある。

④ 学校改革プランの取り組み内容

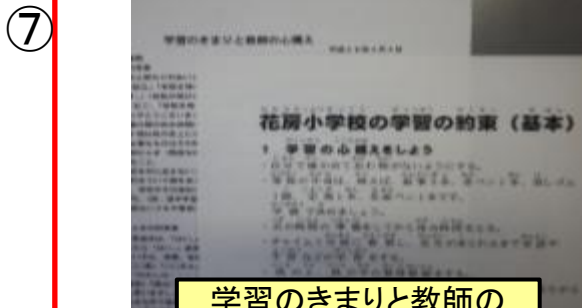
・児童の学び方を全校で統一するために、以前の学習のきまりをもとに、「発表のしかた(児童用)」を見直し、活用するようにした。

⑤ 成果

・学習のきまり(発表のしかた)が統一され、児童が発表しやすくなった。

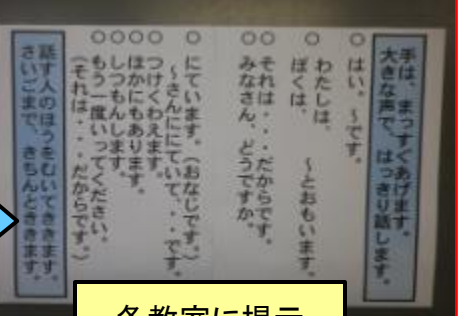
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・作成した内容を会議で共通理解して、授業研究会でも話題にする。



学習のきまりと教師の心構え、学習の約束

この話形を使って発表指導



各教室に掲示

① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

・「南阿蘇っ子学習のきまり」及び「本校の学習のやくそく」についての職員の意識が浅く、形骸化していた。

③ ワークショップでの意見や要望

・学習用具や学びの態度について、校内で共通理解を図りたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・学習用具や学びの態度を全校で統一するため、「南阿蘇っ子学習のきまり」、「白水っ子の学習のやくそく」を再度確認し、活用した。

⑤ 成果

・重点的に指導していくことを全校で共通理解することができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・白水っ子学習のやくそくを全家庭に配布した。
・文具の買い直しまでは、家庭に要求できないところがある。

⑦



- ①南阿蘇っ子学習のきまり
- ②白水っ子学習のやくそく

①学習のきまりは、各教室に掲示し、意識付けを行った。
②学習のやくそくは、全家庭に配布して、協力してもらえるようPTA全体会で話した。

① 取組み: 学び方の工夫改善

② 取組み前の状況

- ・学校統合したばかりで、児童の授業に対する学び方が校内で統一されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・全校共通で、学び方を統一できるような手だてがほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・児童の学び方を全校で統一するために、「学びの手引き」(児童用)を作成し、児童が授業中に手元に置いて、見ながら学習を進められるようにした。

⑤ 成果

- ・授業中の発表の仕方が統一された。
- ・活動に要する時間が短くなった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・ノート指導を行うことで、思考の深まりが見られる。

⑦



児童が迷った時は、「学びの手引き」を用いることができる。

なるほど、こんな時は、こうすればいいんだ。

ノート指導の充実

書き方が上手な子どもノートを、学習ルームに掲示しています。



なるほど、ノートはこんなふうを書けばいいんだ。

① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

- ・「学習態度5原則」に取り組む生徒の割合を向上させたい。
- ・チャイム着席の徹底で授業の始まりにゆとりをもたせる。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・生徒の学習規律を全校で統一するために、「学習態度5原則」を掲示し、日常的な意識化を図るようにした。

⑤ 成果

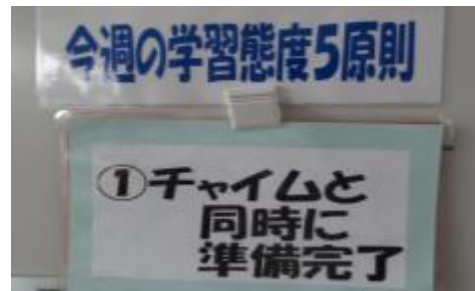
- ・学級掲示により生徒の意識化が図られている。
- ・チャイム前の着席、チャイム開始が定着している。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・各教室に五原則評価システムを設置し、毎時間ひとつの項目を評価するようにした。
- ・クラス間で差が大きい実態に対して、組織的な取り組みを行う。

⑦ 【学習態度5原則】

- ①チャイムと同時に 準備完了
- ②背筋を伸ばし 正しい姿勢
- ③元気な声で 進んで発表
- ④目を見て話そう 自分の意見
- ⑤心で聞こう 相手の言葉



【平成26年度の取組】

- ・毎時間の最後に授業態度についてコメントで評価をする。
- ・強化期間を設定し、毎時間の評価を得点化しクラスマッチ形式で実施する。
- ・数値目標の達成

① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

- ・学習規律を徹底する必要がある。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学習規律など全校が共通理解、共通実践していく必要がある。
- ・6年生のリーダーシップを向上させたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・全校で学習規律を共通実践するために、低学年に6年生の授業の様子を参観させ、学びの姿を共有した。

⑤ 成果

- ・6年生の姿を手本に、学びの姿を共有できた。
- ・下級生たちが6年生に対しての憧れが生まれた。

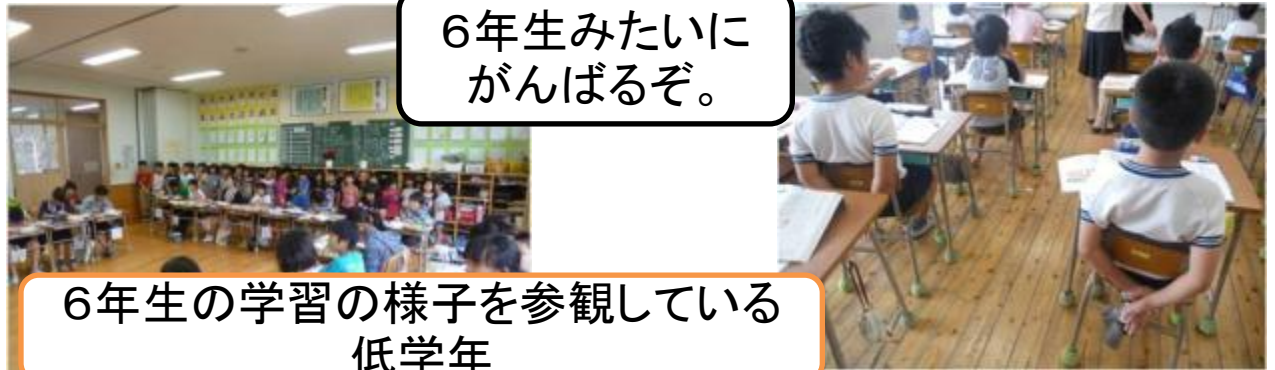
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・事前に他の学年の児童が授業を見に来ることを伝えておく。
- ・低学年の学びの姿も他学年に見せることで、意欲を高める。

⑦

6年生みたいに
がんばるぞ。

6年生の学習の様子を参観している
低学年



① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

- ・生徒自身が学び合うイメージを持って
ずにいた。
- ・生徒が自分の考えを相手の考えにつ
なげて発表できない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学び合いのある授業の様子を生徒に見せる
といいのでは。
- ・「まNAVI愛」を使った授業の定着のためにモ
デルを全校生徒に示して定着を図る。



④ 学校改革プランの取組み内容

- ・全生徒に「学び合い」の共通イメージを持たせるために、「学
び合い」の学習態度を他クラスの生徒に参観させ、学びの姿を
共有した。

⑤ 成果

- ・生徒が学び合い、考えが深まり広がる
ことの楽しさを感じるようになった。
- ・生徒は授業の見通しを持って参加でき
るようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・生徒が自分たちの学びにイメージを
持ちやすいように、モデルを示し、
共通理解・共通実践を図る。

⑦

「自分の考えと友だちの考え
とどう違うのか、興味深く聴
くようになりました。」と子ど
もたち。



「黒板(先生)の方ばかりを見
て授業を受けていた姿から、大
きく授業スタイルが変わりま
した。」と先生たち。

① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

- ・学校統合前は小規模校や複式学級で学習していたために、人前で話すなどの表現力が十分に身に付いていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・子どもたちが、自信をもって表現する力を身に付けさせたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・児童が授業中に発言できるようになるために、ペア学習やグループ学習を授業の中に積極的に取り入れた。

⑤ 成果

- ・授業中の発言が増え、活発な意見交換ができるようになった。
- ・授業中だけでなく、いろいろな場において大人数の中でも、堂々と表現できる子どもたちが増えてきた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業の中で、表現する場を多く設ける。

⑦ 積極的に話し合うことで、自分の発言に自信が持てるようになります。



ペア学習

① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

・学校統合前は小規模校や複式学級で、学習していたために人前で話すなどの表現力が十分に身に付いていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・子どもたちが、自信をもって表現する力を身に付けさせたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

・児童が人前でも堂々と話すことができるようになるために、業前活動(のびやかタイム)に群読や合唱などの場を設け、表現力を身に付けるようにした。

⑤ 成果

・いろいろな場において大人数の中でも、堂々と表現できる子どもたちが増えてきた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・全校児童による群読や歌声タイムを設定する。
・授業の中で、表現する場を多く設ける。

⑦

群読や歌声タイムで、朝から全校児童で大きな声を出しています。



表現力育成
のための
業前活動

① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

- ・学習規律の徹底ができていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学習規律を全校で統一し、共通実践していく必要がある。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・「学び合いカード」や「ノートのと리카た」、「学校に持ってくるものや学習に必要なもの」等のシートを作成し、全校児童に配布し、学習規律等を全校で統一するようにした。

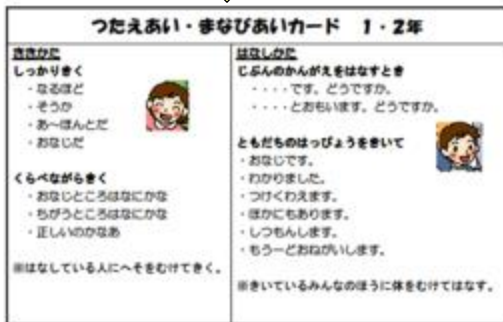
⑤ 成果

- ・学校に持ってくるものの統一ができ、児童が学習に集中できる環境ができた。

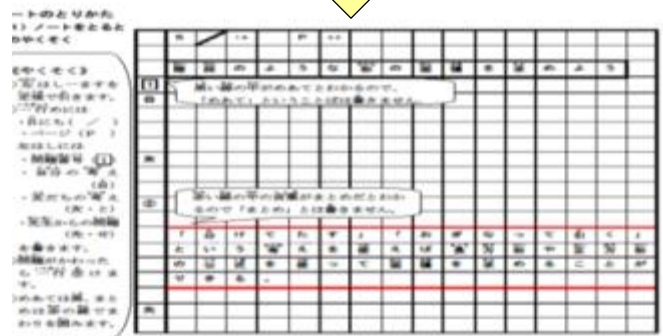
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・担当が、放送で統一事項を話し、教室で各担任が児童の筆箱の中身を確認した。

⑦ 学び合いカード



ノートの書き方の例



① 取り組み: 学び方の工夫と改善

② 取り組み前の状況

- ・学習に集中できない児童がいる。
- ・授業中子どもがもっと発言するよう臨んでいる教師がいる。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・高学年の授業を他学年の児童に見せて、学習意欲や学習中の姿勢、発言の仕方などを学ばせていきたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・体育館で6年生の辞書引き学習の様子を全校児童で参観することで、学びの姿を共有し、よりよい学習態度や発言意欲、辞書のよさについて学んだ。

⑤ 成果

- ・参観した子どもたちの感想から自分も学習を頑張りたい、辞書を使いたいなどの発言があった。
- ・若手教職員にとっても学習指導や学級経営の仕方について学ぶ機会となった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・他学年が6年生の授業を周りを囲む形で参観したことでお手本となる姿勢や態度などがよく見えた。

⑦ 発表する声の大きさが大きくはきはきしていたので、僕もまねをしたいです。



これから分からない言葉があったら、辞書を使っていきたいです。

6年生の背筋が伸びて勉強しています。

① 取り組み: 学び方の工夫と定着

② 取り組み前の状況

- ・語彙力や表現力が不足している。
- ・自主的に取り組む姿が見られない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・進んで、辞書に親しめるようにしたい。
- ・辞書を引くことの楽しさを味わわせたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・高学年の辞書活用の様子を全校集会で全校児童に見せ、辞書の活用の仕方を共有し、他の学年にも辞書の活用を広げるようにした。

⑤ 成果

- ・3年生以上の全てのクラスが辞書を活用するようになった。
- ・休み時間などでも積極的に辞書を活用する姿が見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・6年生をモデルにしたことで、自分たちもやりたいという気持ちにつながった。
- ・辞書の所持率を100%にしたい。



全校集会で6年生の辞書引きの姿を見せ、学びを共有している。

① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

・教師間で他学年の授業参観をすることはあるが、児童が授業参観することはなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・他学年の授業の様子を児童にも見せたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・授業の受け方、学習の仕方を学ばせるために、他学年の授業を児童に参観するようにした。

【授業を公開する週間・・・年間3回(4月、9月、1月)】

⑤ 成果

・発表の仕方、話し方など、視点を絞って見せることで、児童の発表への意欲が高まった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・45分間の中の必要な部分のみ参観させる。

⑦

同じ考えでも、言い方を変えて発表しているんだね。



6年生は、全員発表している。わたしもがんばろう。

6年生の授業を4年生が参観している様子

① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

・自分の考えや思いを相手に伝えることが困難な児童がいる。

③ ワークショップでの意見や要望

・自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためにはどうしたらいいか。

④ 学校改革プランの取組み内容

・思考の流れをスムーズにし、自分の考えを分かりやすくまとめ相手に伝えるために「キーワード」を作成し、活用するようにした

⑤ 成果

・「まず」「つまり」「だから」などつなぐ言葉を教師から問いかけることで、自分の考えをまとめることができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・本校の目指す充実した「学び合い」の素地づくりができた。
・最終的には形にとらわれず、自分の考えを自由に伝えられるようにしたい。

⑦ ⑤ 成果

自分の考えを
わかりやすく伝えよう!

まず 
つぎに
だから
くん

「はかせどん」
は…速く
か…簡単に
せ…正確に
どん…どんな時も
を参考に作成

① 取組み: 学び方の工夫と改善

② 取組み前の状況

- ・毎時間「めあて」「まとめ」カードを用いる。
- ・授業の中に話し合い活動を数多く取り入れ、生徒主体の授業を実践していく。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・本時の流れや今授業で何をしているのかを知らせることで、見通しを持って学習に取り組むようになる。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業の流れが生徒にもはっきり分かるように、「授業の流れ」を示し、流れに沿って「めあて」、「学び合い」、「まとめ」カードを黒板に示し授業を進めるようにした。

⑤ 成果

- ・授業の流れを示すことで、生徒に、今何をすべきか意識させることができた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・学校全体の共通実践事項となることで、全職員意識して取り組むことができた。

今日の授業の流れ

- 1 めあて・課題の確認
- ↓
- 2 「ひとり学び」活動
- ↓
- 3 「学び合い」活動
- ↓
- 4 まとめ・ふり返し活動



① 取組み: 授業形態や指導法の工夫

② 取組み前の状況

・学習の流れが教科それぞれで、教師の指導方法や生徒の学び方の改善が必要である。

③ ワークショップでの意見や要望

・どの教科でも実践できる共通スタイルを確立する。
・教師の共通実践していく工夫を図る。

④ 学校改革プランの取組み内容

・授業の流れが生徒にもわかるように、「めあて」、「課題」、「まとめ」のカードを作成し黒板に示し、授業を進めるようにした。

⑤ 成果

・カードを使用し授業の流れを示すことで、授業の流れがわかりやすくなった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・職員の意識改革と継続的な実践が必要。

⑦



・共通したカードを各教室に準備。
・「めあて」「課題」「まとめ」はどの授業でも行うようにする。

I 先生にたよらず、自分たちで学ぶ方法



授業の流れを掲示

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・全国学力・学習状況調査の結果は出るが、6年担任のみが対策を行っていた。

③ ワークショップでの意見や要望

・全国学力・学習状況調査は6年担任だけの問題ではない。

④ 学校改革プランの取組み内容

・全国学力・学習状況調査の結果を学校全体の課題として取り組むため、落ちこみが見られた学年の内容を各学年に割り振り分析し対策を講じた。

⑤ 成果

・毎年6年担任のみが、課題に取り組んでいたが、課題を各学年に下ろしたことで、学校全体で課題を共有することができた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

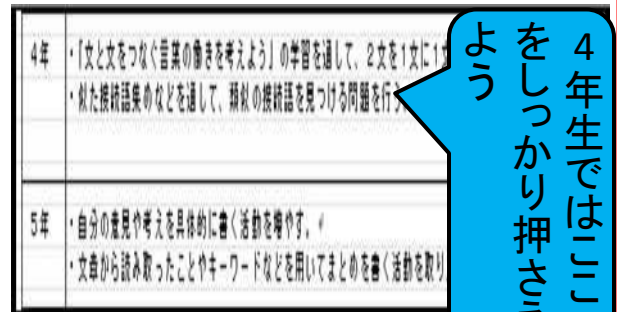
・落ちこみが見られた内容を指導内容に照らして分析し、各学年に下ろして、現学年の問題として取り組むこと。

⑦



学年	国語	算数	理科	社会	英語	総合	道徳	体育	音楽	美術
1年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
平均点	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

全国学力・学習状況調査分析表



4年	・「文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう」の学習を通して、2文を1文に1つ、似た接続語集めなどを通して、類似の接続語を見つける問題を行う。
5年	・自分の意見や考えを具体的に書く活動を増やす。 ・文章から読み取ったことやキーワードなどを用いてまとめる書く活動を取り

4年生では「**二**」をしっかりと押さえるように

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・校内研究会の時間が足りず、指導法の課題解決や教職員の資質の向上につながらない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・それぞれの職員のよさを学べる場がない。
- ・全職員が活発に意見を交換しあう研究会にしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・校内研究会で職員同士が学び合えるように、ワークショップ型の授業研究会を行い、短い時間でもたくさんの意見交換ができるようにした。

⑤ 成果

- ・50分という短い研究会でも深まりが見られるようになった。
- ・全職員の意見が反映され、ワークショップ型の研究会を他校にも広げられた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・ワークショップのコーディネータを若手に任せ、中堅がサポートするようにした。
- ・試行錯誤しながら進めていて、まだまだ改善できる。

⑦



様々なワークショップ形式を行い、効果のある研究会を模索している。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・授業研究会をしても、そこだけで終わってしまい、次に活かされていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・他教科の授業に学ぶ。
- ・学び方の連携(各教科で行っていることを統一できる部分は統一を)。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・校内研究を向上させるために、授業研究会の成果や課題を踏まえ、次の授業研究会を実施するようにした。

⑤ 成果

- ・職員室に掲示コーナーを作り、それぞれの研究授業の成果や課題を提示できた。
- ・つながりのある授業研究を行うことで、「学び合い」を意識化した授業研究が進められた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・成果や課題等をまとめてプリントにして職員室に掲示する。それをもとに事前研究会を行い、成果を生かした研究授業になるようにしている。
- ・日々の授業で「学び合い」の成果を日常化し、練り合いや深め合う日々の実践を継続する必要がある。

⑦ 研究授業を終えて(成果と課題)

研究の成果

- これまでの研究から生徒の育ちや成長が見られた。
- よりよい学び合いを確立するための学び合いの授業を通して、学び合いのプロセスを共有できた。

今後の研究の課題(改善のアイデア)

- まとめる、解決する司会者のスキル・力量の学習が必要。
- 発表が決まった生徒だけに偏る傾向にある。
- 国語科でつけた「学び合い」の力をどのように日常化していくのか。

次回の研究授業に向けて

- 国語科で培われた「学び合い」の基礎をもとに、各教科等で実践する。

地道な取組ですが、みんなで成果と課題を共有することで、確実に「学び合い」のスタイルが定着してきています。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・事前研究会が部活動の終わった時間から夜遅くまでありとても負担。
- ・教材研究や学習指導案作成(授業づくり)の時間が取れない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・授業研究会の負担軽減。
- ・事前研時間の見通し。
- ・学習指導案の簡略化。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業研究会の負担を軽減するために、指導案を簡略化し(展開案のみ作成)、事前研究会の簡素化を図った。

⑤ 成果

- ・全員参加による研修の深まりや意識の高まりが見られるようになった。
- ・研修時間の短縮化が図られた。
(校内研修は45分)

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業研究会では、教科の内容を話合う場面はないので、指導案は研究テーマに関係する展開のみの略案とする。
- ・事前研はマイプランダーを活用し30分程度で実施する。
- ・授業のめりはりと同じで、時間にめりはりをつけて事前研に臨む。
- ・タイムマネジメントが重要。

⑦



先輩からの指導助言もあり、OJTも図られています。

教師も学び合うという雰囲気
が相乗効果
なっています。

ワークショップ型の授業研



全員参加型で質的充実

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・他教師の授業を参観する機会が少ない。
- ・指導力のある教師の授業から自分の授業力を向上させたい。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・校内の指導力ある教師から指導技術を学ぶため、他教師の授業を参観し、教育実践を学ぶ時間を設定した。

⑤ 成果

- ・若い教師が積極的に先輩教師に学ぼうという意欲が見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・校区内学力向上小中連携連絡会の取組に連動した授業研究会の工夫改善(授業参観の視点の設定、ワークショップ形式、生徒の参加等)
- ・個々の担当授業時数により参観が難しい教科がある。

⑦

審議員参観授業について (連絡)

宇城市立小川中学校 平成28年9月4日 (水)

授業改革の一環として、「他教師の実践に学ぶ」ことを進めて行くために、審議員参観授業を利用した取組を進めていきたいと思っております。これまでもしていたことではあります。特に次の3点を意識してお願いをいたします。

- 年間に、少なくとも2回以上(大研等は除く。)の参観をする。
- 自分の担当教科以外からも少なくとも1回は参観する。
- 参観した授業に関しては、必ずフィードバックシートに記入をし、授業担当者へ渡す。

以上のことに留意していただき、実践をお願いします。

なお、担当授業の記入は予定しておりませんが、参観及びフィードバックシートの記入の実施日程をアンケートで調整していただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

宇城市教育委員会 教育審議員訪問指導

審議員参観授業について

審議員参観授業があるときは、指導者と審議員にフィードバックシートを印刷して、先生方の机の上に配布するようにしています。

—お忙しい中ですが、お互いの研修のために、できる限り、少しの時間でも参観していただき、コメント等を直接授業後へお渡し下さい、ご協力をお願いします！



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・限られた時間の中で、充実した校内研修にしていくことが課題である。
- ・学年部での打合せ等の時間を確保しにくい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・一人一人が目標をもち主体的に研修に参加したい。
- ・ワークショップ形式を取り入れてはどうか。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・校内研修における事前・事後研究会の協議をワークショップ形式にして、活発で多様な意見を出し合うようにした。

⑤ 成果

- ・ワークショップ形式の協議により、一人一人から意見が出され、活発な意見交換ができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・研究授業の際に事前に付箋紙を配布し、気づきをその場で記入するようにしている。
- ・小グループでは事前に司会者や発表者を決めておく。

⑦



少人数で話し合うことにより、一人一人の発言回数も増えた。

研修の成果と課題の可視化(印刷室に常時掲示)



① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・校内研修の時間が短く、授業力の向上につながっていない。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・熊本型授業の質を高める研修が必要である。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・授業力向上と時間を効率的に使うため、校内研修において模擬授業やワークショップ型の授業研究会を取り入れた。

⑤ **成果**

- ・模擬授業で発問、板書など授業のシミュレーションができ、「めざす授業」の共通理解ができた。
- ・ワークショップ型授業研究会は全職員の意見が取り入れられ、協議が活発になった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・模擬授業の流し方、発問の仕方などを授業研究部で時間をかけて検討した。
- ・教師が児童役をすることで、児童の立場で授業づくりを考えることができた。



← 模擬授業

授業研究会記録 →

5月28日(木)小研① 宮川

③ ICTの活用

参考になった点・良かった点	さらに改善できる点・疑問に思った点
ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。	ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。
ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。	ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。
ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。	ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。
ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。	ICTの活用が、児童の興味を引く効果があった。

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・授業研究会での意見交換が深まりにくい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・授業を見て学び合える場がもっとほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・活発に意見交換できるように、授業研究会における協議をワークショップ形式にした。

⑤ 成果

- ・各グループで一人一人の意見を多く引き出すことができ、活発な意見交換ができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・全体協議の場では短冊を活用し、課題や改善点を出し合い、今後の指導に生かすようにしている。

⑦



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・授業研究会をスクール型で行っており、全員参加型ではなく、指導力向上につながっていなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・全員が参加できる授業研であってほしい。
- ・まとめを校長先生にお願いするのではなく、自分たちで学んでいきたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業研究会で全職員が参加するために、ワークショップ形式にし、指導案を拡大印刷し各グループに配布して、付箋等を用いて意見交換を行うようにした。

⑤ 成果

- ・ワークショップ型にしたことで、意欲的に研究会に参加できた。
- ・まとめを授業研究部で行ったことで、自分たちが学んでいるという意識が高まった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・職員の指導力向上のために、まとめを授業研究部で行う。
- ・研究会での協議の視点を明確にすることが大切。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・授業研究会が一部の職員の発言にとどまり、多様な意見やアイデアが出にくかった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・他の職員の様々な考えや授業実践を知りたい。
- ・教科の特性があるので意見を出しづらい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業研究会において、多様な意見を出し合うために、ワークショップ形式を取り入れた授業研究会を行うようにした。

⑤ 成果

- ・参加者全員が共通の視点で授業を参観・協議できるようになった。
- ・参加者全員の考えを知ることができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業を参観する視点を事前に知らせ、何を協議するのかを共有して研究会に参加するようにした。
- ・グループ毎に協議する視点を決めた。
- ・グループ内で1人1人の考えを発表する時間を設定した。

⑦



ワークショップを取り入れた授業研究会の様子

マトリクス表と班編制

	導入・ゆめ て・まとめ (1班)	疑問・板書 (2班)	自力解決・学 び合い (3 班)	能動・創造学 習 (4班)	学習訓練・か がやき (5 班)
よかった点					
課題 手だて・助 言					
班編制	山田・堀増 志水・片山 磯前・岡田	益崎・下澤 桑原・久保 原田・渡田	森川・大寺 岡川・手島 川部・洲田	牧山・宮村 石田・一歩 源 藤本・西澤	長崎・三次 中村・定規 曾我

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・代表者が研究授業を行っていた。
- ・授業研究会では、質疑が多く協議の時間が十分に取れていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・授業研究会にワークショップ形式を取り入れてはどうか。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・全職員の指導力向上のために、全職員が研究授業を行うとともに、ワークショップ型の授業研究会を実施し、より多くの意見を出し合い、指導方法の工夫改善に努めた。

⑤ 成果

- ・以前に比べ、意見が活発に出るようになり、協議の時間が確保でき、指導方法の工夫改善ができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・グループでの協議を全体で共有し、課題についての改善策は、もう一度グループで協議する場を設けている。

⑦ ワークショップ形式での授業研究会の様子

付箋紙に気づきを記入し出し合う。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・全国学力・学習状況調査の結果の対策が、全学年に浸透していない。

③ ワークショップでの意見や要望

・全国学力・学習状況調査の結果は、学校全体の課題であり、学校全体で取り組む必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

・「全国学力・学習状況調査と県学力調査を基点とした検証改善サイクル」を作成し、全職員で課題を分析し、対策を考えた。

⑤ 成果

・「いつ」「誰が」「何をするか」を明確にしたことで、全職員で学校全体の課題を共有することができた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・今後は検証改善サイクルに基づき、シートを使った小問分析や課題のある単元、領域への書き込みを行う。

⑦ 付箋を貼った教科書



検証改善サイクル

		学校名(芦北町立田浦小学校)		
		学校の取組		
テスト・他	担当	研究推進委員会・校内研修	授業研究部	日常活動部
4月	P	○全国学力・学習状況調査実施 ○校内研究計画の立案と共通理解		
5月	P	○今年度の展開の出題の傾向、領域の理解(教科書) ○解説資料を配付し、出題内容を精読(教科書・担任) ○職員への公開、共通理解(全職員)	○研究テーマ、依頼、構想図等 ○指導案形式の提案① ○小研実施(4の1, 1, 1の9)	○学習・生活のICT各アンケート ○学習・生活の約束の確認 ○家庭学習の学習指導案 ○ICT活用について連携研修
6月	D	○出題内容を分析し、昨年学年の教員研修所に付箋を貼り、課題として共有することを共通理解(全職員) ○対策方法、愚問決め(研究主任)	○指導案形式の提案② ○授業内容の見直し ○ノート指導の統一 ○紙面ブラッグについて	○授業フェスタへの取組 ○校内掲示物の作成
7月	C	○県学力調査の課題、全国学力学習状況調査実施結果の領域等に付箋貼り(全職員)	○連携研究発表(2017年14日～17日) ○授業内容の見直し ○講習やワークショップ ○学習記録や振り返りの仕方	○授業フェスタ実施 ○自分で考える力(学習・生活の約束)の確認
8月	C	○全国学力・学習状況調査の結果公表 ○全職員へ結果公開(教科書) ○数単元や全学年の出題から課題の洗い出し -「黒より短い」「50%以下の領域・観点を中心にして課題を明確化(後発)」「漢字・計算大糸の整理(教科書・担任)」	○目標設定を明確にするための取組 ○指導案の策定...学習記録や振り返り ○講習やワークショップ ○校内掲示物作成一斉替え	○アンケート分析 →2学期の取組を策定 ○ICT活用の連携研修
9月	A	○調査票、アンケート作成した小問分析 -「つまずきの原因、内容、学年を把握(教科書・研究主任)」 ○課題のある単元、領域へ書き込み(全職員)	○9月以降、フラッシュカードの活用、確認テストの活用 ○学習記録等ができていないから、小研で確認。	○個別学習プリントの活用 ○児童の実態把握①

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・全国学力学習状況調査結果の活用が学校全体としてできていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・全国学力学習状況調査結果を授業の中で具体的に活用する必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

・平成24・25年度の全国学力学習状況調査結果から、正答率が全国平均より低い問題の単元について、教科書に付箋（※正答率を書いたもの）を貼り、意識して指導の徹底を図るようにした。

⑤ 成果

・6年担任だけでなく、各担任の学習指導への意識の高まりが見られた。

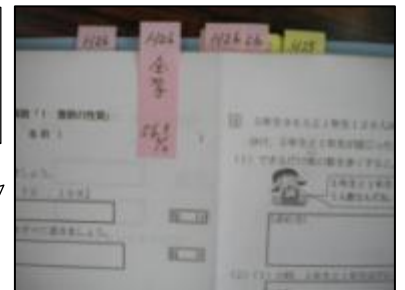
⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・校内研修時に、ミニ研修として、実際に問題を解いて、児童のつまづきをイメージできたこと。



正答率が低い問題の単元について、教科書に付箋を貼り意識して授業を行う。

正答率が低い問題の単元について、単元別評価問題に付箋を貼り、学力充実の時間などで活用する。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・授業参観は、研究授業のときに参観するだけであった。
- ・授業のよさを他人から指摘してもらう機会が少ない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・指導力向上のテクニックの取得



④ 学校改革プランの取組み内容

- ・空き時間に他の教師の授業を参観することで、①他者の指導力のよさを学ぶ機会とし、②他者から、自分自身の指導力についてよさを指摘してもらうことで、自分自身の指導力を高めるようにした。

⑤ 成果

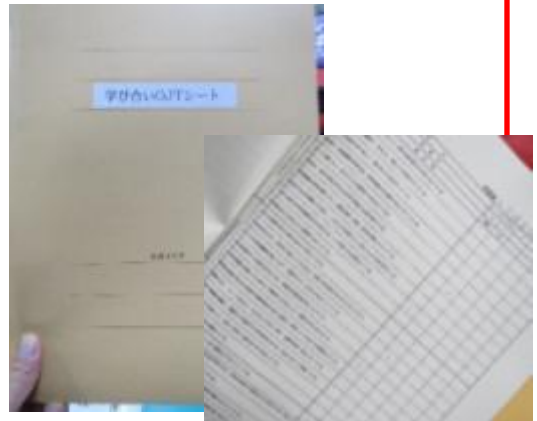
- ・全員参加による研修の深まりや意識の高まりが見られた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・指導力向上のためのOJTシートを活用した。
- ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を重点とした指導技術を学ぶ。

⑦ 【OJTシートのチェック項目一例】

- 生徒が興味・関心をもつように、資料や教材提示の方法を工夫している。
- 多様な考えを生むような発問を工夫している。
- 授業の中で「よくできたね」「がんばっているね」等の、承認や称賛、励ましをしている。
- 教師主導にならず、生徒のテンポに合わせながら授業を進めている。
- 発言をつなげ、集団での学び合いになるようにしている。他 全30項目



① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・職員の授業等の悩みを聞く場や、校内研以外の研修の場がなかった。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・個別の授業等についての困ったことなどを解決する場があるといい。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・先輩の職員が講師になり、職員の授業力等の向上のために、放課後に自主研修会を行うようにした。

⑤ **成果**

- ・自主研修後に、受講した職員がさっそく学んだことを実践していた。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・研修内容に応じて、先輩職員が交代で対応している。
- ・実施する時間の確保が難しい。

⑦
・授業だけでなく、週案の書き方、学級経営の工夫なども行っている。



自主研修会の様子

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・特別支援学校の勤務経験が浅く、特別支援教育の専門性向上が必要である。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・苦手なことへの校内研修があってほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・夏季休業中に、特別支援学校での勤務経験5年以内の職員を対象には、「ARA・SHI基礎講座(特別支援教育に関する基礎基本の内容)」を、全職員には「専門性向上研修」を実施した。

⑤ 成果

- ・6講座開催し、延べ100名を超える参加があった。
- ・本校職員による講座であるため、気軽に参加でき、特別支援教育の基礎的内容を学ぶことができた。
- ・意識改革にもなり、分掌部における自主研修に繋がった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・教育委員会や教育センターの講師として依頼されている職員、校長による講座であるため、参加希望者も多かった。
- ・勤務経験5年以上の職員の自己研鑽が必要である。

⑦



保健体育部では、まず部員が自信を持って応急手当ができるように、有明広域行政事務組合消防本部の「第5回応急手当コンテスト」の練習及びコンテストに参加し、優勝するとともに全チーム(4チーム8人)が入賞した。

【平成26年9月8日(月) 有明新報 掲載】

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・校内研修のテーマに沿った授業づくりが難しい。
- ・指導力向上の具体的な手立ての共有や継続が難しい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・子どもたちの興味や意欲が持続する授業をしたい。
- ・話し合いでの時間と内容のバランスが難しい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・指導力向上のために、外部講師を事前研究会、研究授業、授業研究会に招聘し、授業づくりの理論と方法(授業のUD化等)に関して知見を広げ、授業に生かすようにした。

⑤ 成果

- ・研究テーマに即した授業のイメージをもつとともに、職員の共通理解を図ることができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・関係機関(教育事務所、県立教育センター等)を積極的に活用する。

⑦



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・職員の授業に対する共通認識が不足していた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学びのUD化を推進する。
- ・生徒の学力の定着に向けて指導力の向上を図る。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・全職員が学びのUD化と指導力向上のためのテーマを決め研究授業を行うようにし、研究授業の負担を軽減するために学習指導案は本時の展開のみに簡略化した。

⑤ 成果

- ・全職員が研究授業を行ったことで、授業改善のポイントが明らかになった。
- ・指導案を簡略化したので、具体的指導についての研究が深まった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・職員の意識改革と継続的な実践が必要。

⑦



美術の研究授業



音楽の研究授業

単元	時	単元	時	単元	時
第2学期	美術科	指導案	第2学期	美術科	指導案
1. 単元の学習目標 (学習到達目標)	1.1. 目標	1. 単元の学習目標 (学習到達目標)	1.1. 目標	1. 単元の学習目標 (学習到達目標)	1.1. 目標
2. 単元の学習内容 (学習到達目標)	2.1. 単元の学習内容 (学習到達目標)	2. 単元の学習内容 (学習到達目標)	2.1. 単元の学習内容 (学習到達目標)	2. 単元の学習内容 (学習到達目標)	2.1. 単元の学習内容 (学習到達目標)
3. 単元の学習方法 (学習到達目標)	3.1. 単元の学習方法 (学習到達目標)	3. 単元の学習方法 (学習到達目標)	3.1. 単元の学習方法 (学習到達目標)	3. 単元の学習方法 (学習到達目標)	3.1. 単元の学習方法 (学習到達目標)
4. 単元の学習評価 (学習到達目標)	4.1. 単元の学習評価 (学習到達目標)	4. 単元の学習評価 (学習到達目標)	4.1. 単元の学習評価 (学習到達目標)	4. 単元の学習評価 (学習到達目標)	4.1. 単元の学習評価 (学習到達目標)

学習指導案(本時のみ)

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・授業研究会などで、特定の職員の発言により、会が進んでいくことが多い。

③ ワークショップでの意見や要望

・参加者全員の意見が反映され、活発な意見の交換が行われるような研修会にしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・全職員の意見が反映されるように、すべての授業研究会で、ワークショップ型の授業研究会を取り入れた。

⑤ 成果

・参加者全員に発言の機会があり、参加への意欲が向上している。
・多様な意見が出されるようになり、充実した研修になった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・研修担当職員が、県立教育センターの講座を受講し、参加型研修会のやり方を学んだこと。

⑦



グループでの話し合いの様子

県立教育センターとのテレビ会議



① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

・他地域の学校の先生方から授業及び本校の取組について意見や指摘を受け、授業の工夫改善を図りたい。

③ **ワークショップでの意見や要望**

④ **学校改革プランの取組み内容**

・指導力向上のために、公開授業及び授業研究会(自主発表会)を実施し、他校からの多くの意見やアドバイスをもらい、授業改善するようにした。

⑤ **成果**

・様々な意見や指摘を受け、授業の工夫改善につながった。
・全職員で取り組んだことで、学校全体としての意識が高まった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

・県立教育センターの協力を得て、指導案や授業研究会等の相談を行った。
・早めの計画提案(いつ、誰が、何をするのか等)が必要である。

⑦



1年授業



太田所長講演



6年授業

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・研究授業及び授業研究会をしてもそこだけで終わってしまい、次に生かされていない。
- ・児童の学力及び自分の授業力を向上させたい。



③

ワークショップでの意見や要望

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・校内研究を充実させすべての職員の指導力向上のために、講師を招聘した研究授業を年3回実施し、今後の授業実践に生かすようにした。



⑤ **成果**

- ・研究授業を行うことで、伝え合う場の設定や効果的なICTの活用などを改めて検証することができた。
- ・年間を通してつながりのある授業研究が進められた。



⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・授業を参観する際の視点を明確にし、何を協議するかを全員で共通理解して行った。
- ・授業以外でも本校の課題である「伝え合い」を意識した実践が必要である。

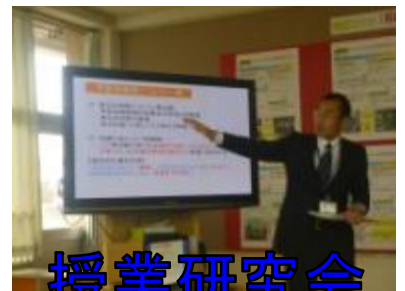
⑦



模擬授業



研究授業



授業研究会

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・全国学力・学習状況調査の結果から、算数の基礎、応用問題共に課題があった。

③ ワークショップでの意見や要望

・基礎基本の徹底の時間やゆるやかなチャレンジ的応用問題に取り組む時間を設定してほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・基礎学力及び応用力向上のため、業間の時間に、月曜と金曜は応用活用問題、火曜と木曜は基礎基本問題に取り組むための時間を設定した。

⑤ 成果

・県学力調査結果の昨年と今年を学年で比較すると、2学年で主に「知識」「活用」の定着率が向上し、改善が見られた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・地域応援団にも協力を要請し、複数体制で取組を行った。
・県の定着率を下回った部分には過去問題や単元別評価問題を活用する。

⑦



地域
応援団
丸つけ
ボランティア



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・授業研究会時に生徒の変容の視点から成果の可否を協議することが難しかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・協調・協働的な学習活動による成果を見取る場合は、様々な生徒がどのように変容したかを観察する必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

・研究授業(特に「学び合い」活動の場面)において、一人ひとりの参観者に対して観察対象生徒を設定し、各生徒の言動を観察する取組を行った。

⑤ 成果

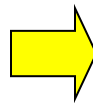
・一人ひとりの生徒の変容を見取ることで、研究授業における成果や課題が明確に見えるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・参観者の行動が授業の妨げ(生徒のそばで観察するので、生徒が緊張する)とならないような工夫が必要である。



この班には4人の観察者が付いています



同班の生徒を観察した職員による協議

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・話し合い・ペアトーク以外の協調・協働的な学習活動を、授業に取り入れることができなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・協調・協働的な学びを実現するために、どのような活動が授業に取り入れられるのかを知りたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・協調・協働的な学びを実現するための知識構成型ジグソー法を取り入れた提案授業を行い、全職員に紹介し、授業研究会でその可否を協議した。

⑤ 成果

・生徒が意欲的に課題を探求する姿、確かな学力を身に付けていく過程を見取ることができた。
・協調・協働的な学びに対する職員の意識が高まった。また、ワールドカフェの手法を用いて校内研修を行うこともできた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・提案授業を行う前に「知識構成型ジグソー法がどのような手法か」を職員が理解する場を設定した。
・協調・協働的な学びを実現するための様々な手法を紹介し、各授業で実践してもらった。

⑦ ジグソー法への理解を促すために配付した資料の抜粋

2 知識構成型ジグソー法を行う5つの活動

(1) 学習課題の提示 …学習課題と、それを解くためのヒントとなる小課題(3つに分けるのが良いだろう)を理解する。※この場面ですでに3~4人の班(ホームグループ)ができています。

班ごとに3つの小課題について誰が担当するのかを分担する。

(2) エキスパート活動…同じ小課題を担当する生徒が集まって班(課題別グループ)を作り、小課題に対する答えを探求する。

(3) ジグソー活動 …最初の班(ホームグループ)に戻り、異なる小課題について自分が調べてきたことを発表し合う。これを統合して課題に対する答えを出す。

(4) クロストーク活動…グループ毎に考えた課題に対する答えを発表する。自分の班の考えを発表して確認(課題遂行)したり、他の班の発表を聞いたり見たりしながら、自分の考え(知識)を深化する。

(5) 学習のまとめ …学んだことを基に、一人で課題に対する答えを書き、考えを整理する。

知識構成型ジグソー法の進め方

全体で 学習課題(問題)と小課題の提示(確認)

ホームグループごとに 小課題の選択

課題別グループに分かれ エキスパート活動

ホームグループに戻り ジグソー活動

全体で クロストーク活動

全体(個人)で 学習のまとめ(整理)

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・教師側のみの視点で授業研究会を行っていた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・授業研究会に生徒を参加させ、生の意見を取り入れる。
- ・理解の度合いが異なる生徒の声をより多く引き出したい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業研究会をより深めるために、公開授業の授業研究会に生徒を参加させ、質疑応答や意見・感想を発表してもらう。

⑤ 成果

- ・生徒の生の声で、より良い授業のあり方を考えることができた。
- ・研究会で発表することで、生徒の発信する力がつき、主体的に授業に参加する意識化が図られた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・全職員の協力体制があった。
- ・授業研究会に参加して発表するのが厳しい生徒に関しては、直後インタビューを職員で行い、全生徒に直後アンケートを実施し、授業について振り返らせ、研究会で紹介する。
- ・全クラスで実施できればさらに力がつき、意識化が図られる。

学校改革プロジェクト・研究授業フィードバック【生徒向け】

☆今日の授業を振り返って簡単に答えて下さい。

◇今日の授業の理解度は、100点満点で何点か？ 【 /100点】

◇今日の授業の大事なポイントや疑問点を簡単に説明して下さい。難しい場合は、大事だと思うキーワードは何？

◇今日の授業で自分の意見をしっかりと伝えました(持ってきました)か？ 【 はい / いいえ / その他 】

◇普段の授業で「もっとこうしてほしい」と思うことは？

◇今日の授業の感想を簡単にどうぞ。

達成感や満足感などと一緒によりよい授業を自分自身で「一緒に頑張りましたよ！」
ご褒美がとろとろございますよ！



学校改革プロジェクト・授業改革担当の先生方へ

☆授業研究会で、生徒の「生の声」を引き出すために・・・

授業直後に、1～2名へ聞き取りをお願い致します。
(※特に授業研究会への参加が難しく、発言が難しい生徒を中心にお願いします)

◆視点(対象の柱) ※生徒側の視点に立てても考える(※発問は理解しやすいかなど)
①基礎・基本の定着を図るための効果的な指導の工夫の在り方
②(本時のねらいにそなえるための)言語活動の充実を図るための効果的な指導の工夫の在り方

質問例

☆今日の授業の理解度は、100点満点で何点か？どこがわかりにくかった？

☆今日の大事な内容を簡単に自分の言葉で説明できるか？【基礎・基本の定着】
答えなかった場合は、原因は？(やっている内容が分からない？発言がしにくい？)

☆OOの場面では、自分の意見がしっかり言えたか？【言語活動の充実】
答えなかった場合は、原因は？(やっている内容が分からない？発言がしにくい？)

☆言ったりは授業で役に立っているか？心がけていることは？

☆今日の授業で楽しかった場面は？誰を使った、賢くなったと言う場面はどこ？

☆どのような授業が参加しやすいか？(形態・条件・発問等)

☆もっとこうしてほしいという要望はないか？ など

【メモ】~~~~~

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・授業研究会の時間が限られており、授業の流れを検討し合う模擬授業が実施できない。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・授業研究会の時間の効率化を図りたい。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・公開授業の事前研の中で、模擬授業を授業者が行い、具体的場面を想定しながら指導案を検討した。

⑤ **成果**

- ・参観の視点を全職員で共有し、事後研の時間の効率化・焦点化を図ることができた。
- ・各自に自分の授業として捉える意識が高まった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・多様な意見を集約することが難しい。



算数科研究授業の様子



事前研で模擬授業を行う様子

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・授業研究会が熱心に行われてはいたが、授業の場面を想定した協議がなかなかできない。

③ ワークショップでの意見や要望

・もっと内容の充実した研究会にしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・校内での研究授業を行うときは、事前に授業者が模擬授業を実施し、学習場面を想定して検討するようにした。

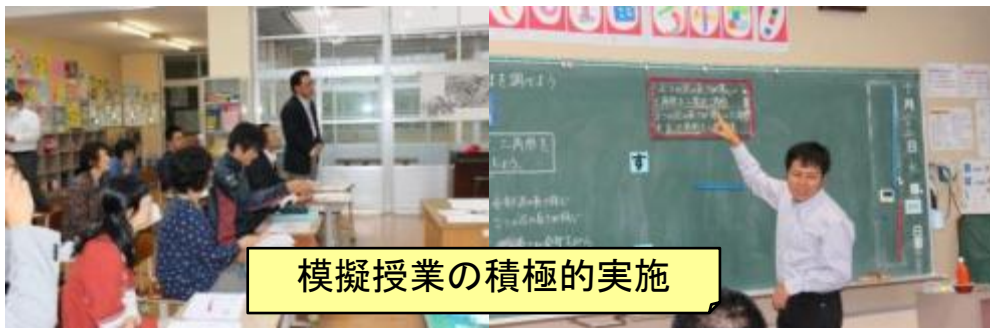
⑤ 成果

・模擬授業により、児童の反応が予測でき、発問等の改善につながり研究会が充実した。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・教育センターからの授業研サポートがあり、授業改革の視点をしっかり持った研究会になった。

⑦



模擬授業の積極的実施

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

・全国学力学習状況調査・県学力調査について、対象学年以外の職員の意識が低い。

③ **ワークショップでの意見や要望**

・全国学力学習状況調査や県学力調査における本校の課題は、学校全体の課題としてとらえるべき。

④ **学校改革プランの取組み内容**

・全国学力学習状況調査・県学力調査の結果を分析し、全職員で課題の共有を図り、授業や家庭学習を利用してゆうチャレンジの過去問に取り組むようにした。

⑤ **成果**

・算数を中心に定着率が少し上がった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

・国語でやや課題が多かったので、今後引き続き指導を工夫していきたい。

⑦ **ゆうチャレンジ過去問に取り組む児童**



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・生徒対象の授業アンケート調査を年1回実施し、集計は職員が表計算ソフトに手入力していた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・質問項目が16項目と多く、集計の負担が大きい。
- ・調査結果が十分に授業改善に生かされていない。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・これまで16項目あった調査項目を4項目に絞り、全クラス対象から各学年4クラスを抽出してアンケート調査を実施した。

⑤ 成果

- ・集計と分析が短時間でできるようになった。
- ・授業改革の成果と課題を把握できるようになった。

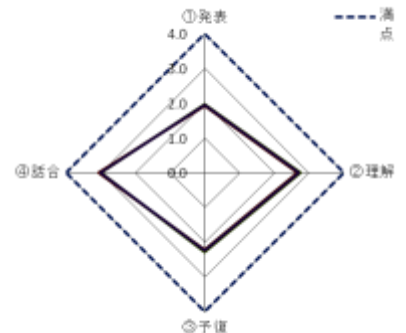
	4そう思う 3ややそう思う 2ややそう思わない 1そう思わない	区分	満点	1年	2年	1・2年
①	授業全般において、積極的に発言や発表をしている	①発表	4.0	1.9	2.0	1.9
②	授業全般において、授業内容をある程度理解できている	②理解	4.0	2.7	2.8	2.7
③	予習・復習が必要な授業では、必ず予習・復習を行っている	③予復	4.0	2.2	2.3	2.2
④	ペア・グループでの学習活動では、仲間と協力して話し合い等の活動ができている	④話合	4.0	3.1	3.0	3.0

実施日:平成26年11月 対象:1年4クラス・2年4クラス

【アンケート結果から分かったこと】

アクティブラーニングの推進により、話し合い活動等に積極的に参加する生徒は多い現状にある。

しかし、授業中に積極的に発表したり、予習して授業に臨んだりする生徒など、主体的に学習に取り組む生徒はまだ少ない状況にある。



① 取り組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取り組み前の状況

・これまでの研究発表会では発表者側の意見が一方通行になりがちで、参加者と意見交換する機会が少ない。

③ ワークショップでの意見や要望

・それぞれの頑張りを感じる場をつくる。小さなことでも認められれば、うれしく、やりがいを感じ、「がんばろう」という意識を強く持てる。

④ 学校改革プランの取り組み内容

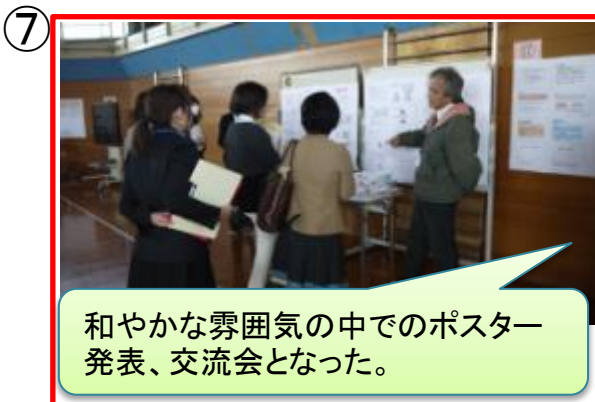
・実践発表交流会で「ポスター・セッション」の時間を設け、本校職員が一人一研究の取組をポスター発表することに加え、参加者にも一人一研究のポスターの持参を募り、指導力向上に対して意見交換ができる場を設定した。

⑤ 成果

・参加者の表情にも満足感を感じることができ、積極的に意見交換が行われ、研究への意識の高まりを感じた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・これまでの手法の良さを残しつつも、形にとらわれない自由な発想での運営。
・研究成果を共有できるようにするためのデータベース化が必要。



実践を通じた交流の広がり。

温かいお茶を片手に思わず本音も。楽しい語らいは時間いっぱい続いた。



① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

・校内研修のまとめは、主に校長や教頭が行っていた。

③ **ワークショップでの意見や要望**

・参加型研修の一環として、まとめまで職員で行ってみてはどうか。

④ **学校改革プランの取組み内容**

・授業力向上と職員一人一人の研修への参加意識を高め、研修内容の理解を深めるために、校内研修のまとめを、全職員が交代で行うようにした。

⑤ **成果**

・授業者以外の職員が、これまで以上に当事者意識をもって研修に参加するようになり、研修意識と専門性の向上につながった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

・まとめを職員で行うことの目的を共通理解できたこと。

⑦
(職員による
まとめの様子)



① 取り組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取り組み前の状況

- ・一人あたり年に約1回の研究授業を行っていた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・互いに授業を見せ合う機会を増やしたい。
- ・普段の授業も研究テーマを意識して改善していく必要がある。

④ 学校改革プランの取り組み内容

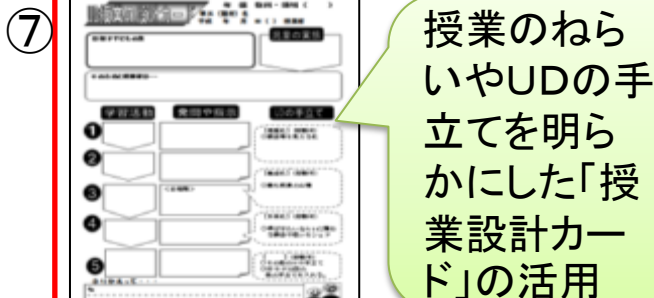
- ・指導力向上のために、月に1回、互いに授業を公開して見せ合う「見せ合っこ授業」を実施し、研究テーマに基づく授業研究の機会を増やした。

⑤ 成果

- ・各学年の授業を参観する機会が増え、いろいろな授業を参観することで、たくさんの指導技術を学べるようになった。
- ・公開授業の課題を次の授業改善に生かすことができるようになった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・指導案を研究の視点に沿って精選した、「授業設計カード」を作成して、研究テーマを意識した授業研究を行うようにする。



授業のねらいやUDの手立てを明らかにした「授業設計カード」の活用

ボードで「見せ合っこ授業」の実施を周知



① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・研究授業(大研)の回数が年3回であったため、職員全員が「学び合い」のイメージづくりを行うのに時間がかかる。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・「学び合い」の授業とはどういう授業なのか、具体的なイメージをつかみたい。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・授業者の負担を減らすため、年3回の全員参加の大研をやめ、学年部ごとに略案による小研を行うようにした。

⑤ **成果**

- ・事前研もなくし、指導案も本時の展開案と板書計画のみにしたことで、授業者の負担が減った。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・時間をかけることなく、何回でも行うことで、職員に「学び合い」のイメージを持たせることができた。



授業後は、授業研究会で検証し合ったこと、課題や改善点、今後の取組について応用紙にまとめ掲示し、職員全員で共有できるようにした。

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・班活動が、自分の感想や考えを伝えるだけの活動に終わっていた。

③ ワークショップでの意見や要望

・授業づくりを行う上で、具体的な「学び合い」の方法やポイントなどが分からない。

④ 学校改革プランの取組み内容

・すべての教科で学び合いのある授業を実践するために、学習指導案に「一人学び」、「学び合い」活動、そして、学び合いの質(レベル)を明記するようにした。

⑤ 成果

・学習指導案に明記することで、「学び合い」、「一人学び」を意識した授業づくりができた。
・学習のねらいをより明確にするとともに、課題やめあての設定の工夫につながった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・校内研修で講師を招き、全職員で「学び合い」の形態や質(レベル)について研修を行った。



学び合いについて

「本時でどこまで求めるのか」によって、学び合いの質が変わる。

質(レベル)

質(レベル)	学び合いの形態
レベル0	出し合う(一方通行)
レベル1	伝え合う(誤 → 正)
レベル2	伝え合う(正 → 複数の解法・考え)
レベル3	伝え合う(自分の考え → 再構築)
レベル4	伝え合う(新たな価値を付加された考え)

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・学校で統一した授業の取組の評価が十分にできていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・授業の評価を客観的にできないか。
- ・チェックシートなどで数値化できないか。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・職員の授業力向上のために、チェックシート(デコちゃんカード)を作成し、授業の評価を数値化するようにした。

⑤ 成果

- ・お互いの授業を客観的に検証し合うことができるようになった。
- ・授業の評価を数値化して評価の精度を上げることで、授業研究会での協議内容を焦点化することができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・取組内容を職員一人一人が意識するようになった。

⑦

- ・授業者が本時の授業で特に重点化を図っている部分も記載。

- ・研究主任が授業後集計し、授業研究会冒頭で数値を発表。

デコちゃんカード

◎あてのなつ◎の空に向けて「デコちゃん」にしよう!

口の中に数字を記入してください。

★上でもよい。★がちらちら見えればよい。★数値的に授業の必要あり。↑改善の必要あり

1	授業について 自分の考えが持てたか。	
2	評価について 自分の考えを述べさせるための学習がなされているか。	
3	授業について 自分と違う学び合いカードを元にした対話の動きができたか。	
4	評価について 教師の「問い返し」のポイントを元にして考えをつなぐ動きができていないか。	
5	めあてに沿ったまとめになっているか。	
6	ICTの効果的な活用がなされているか。	

視点1 自分考えを述べさせるための工夫
 ・問題解決方法や発問の工夫
 ・算数的活動の充実
 ・授業準備の確保
 視点2 自分と違う考えを育てるための工夫
 ・効果的な場の設定
 ・基本的な学び方
 ・考えをつなぐ教師の働きかけ

※ ○で囲んだ数字は、本時の授業で特に重点化を図っている数字を示す。

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・各種調査の効果的活用が図られていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・個別指導の時間を確保してほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

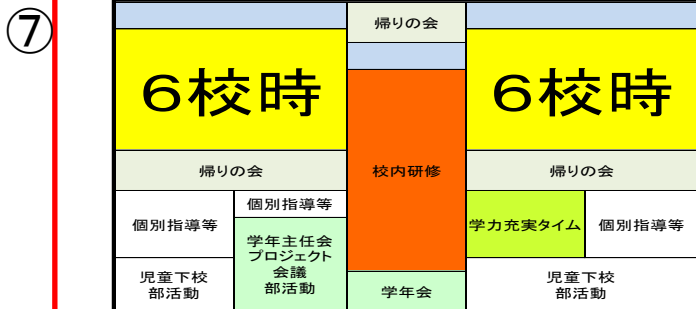
- ・学力向上を図るため、毎週木曜日の放課後、学力充実タイム(3年生以上)を設定し、県学力調査の過去問題等を利用して問題に取り組むようにした。

⑤ 成果

- ・問題に粘り強く取り組む児童が増えた。
- ・学力充実タイムの設定により、学校全体で児童の学力向上を目指すことができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・児童の実態を的確にとらえ、各種調査の更なる効果的活用を図る。
- ・個に応じた支援を行うことができるように、複数体制で指導に当たった。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・4年前より日本特殊教育学会で本校の研究発表を始めたが、さらなる指導力と専門性の向上が必要。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学校としての専門性を高めるために、何ができるか、いまのままで良いのか等課題はある。
- ・毎年多数の教師が入れ替わることで難しさを感じる時がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・これまでの取組を継続しさらに強化するために、学会での発表のみならず、雑誌への投稿やその他県内外の研究会において積極的に情報を発信するようにした。

⑤ 成果

- ・外部からの評価を受けることで、教師の実践への意欲、意識が高まった。
- ・休日の外部研修への職員の自主参加が大幅に増えた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・各人が受けた研修の内容等を校内ネットワークを使って全職員が閲覧できるようにする。
- ・研修案内は、文書回覧でとりまとめる。
- ・教育センターと連携し、授業研究に取り組む。

⑦



今年で4年目になります。今年も本校の研究の取組について発表しました。(於: 東北大学)

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

・各教科の学習に於いて、知的障がいのある児童生徒に対する実態に即した主体的な学習活動を展開するための指針が不明確。

③ ワークショップでの意見や要望

・教員間の指導方法の連携、指導方法の共通理解をし、認め合える機会をつくっていききたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・指導力向上のために、県立教育センターとの研究協力により、知的障がいのある生徒たちが自分のもてる力を発揮し、相手を意識して伝えあい、協働して課題を解決する授業に取り組むようにした。

⑤ 成果

・教科指導における板書計画や発問の方法などの工夫につながった。
・検証結果を整理し、グループ全体で結果を共有し全体の授業に活かすことができた。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・関連する研修会等に参加し、授業づくりのヒントとなる情報を整理し活かすよう努めた。

⑦



中学部一般学級
1年生「国語」

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・大研1回につき、1本の授業を公開し、授業研究会を行っていた。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・いろいろな授業を見たい。
- ・自分が所属する部会だけでなく他教科も学びたい。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・指導力向上のために、これまで大研1回につき1本だった公開授業を、3本(知・徳・体)にし、職員が所属する部会、または学びたい教科を参観できるようにした。

⑤ **成果**

- ・職員のニーズにあった授業を参観でき、また、授業研究会で学ぶことができるようになった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・3本それぞれの授業研究会での内容を報告する時間と場を設定する必要がある。



① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ・学力の個人差が大きい。(各種調査結果から)
- ・学習への意欲が低い児童が見られる。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学校総体として、授業で取り組んでいく方向性を統一する必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・校内研修においては教科を絞らず、①主体的に学ぶ意欲、②学び合い、③学びのUD化に焦点を絞り、研究テーマに沿って研究を行うようにした。

⑤ 成果

- ・児童同士で意見を交流しながら進める問題解決型の学習が定着し、意欲の向上が見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・全職員で共通理解し取り組んだこと。
- ・公開授業、研究授業に意欲的に取り組んだこと。

⑦



体育の授業で、撮影した動画を見ながら、情報交換をしている様子



理科の授業で、電子黒板を使い、自分の考えを発表している様子

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

- ・支援を要する児童への対応が十分ではない。

③ **ワークショップでの意見や要望**

- ・教育支援員を適切に配置してほしい。

④ **学校改革プランの取組み内容**

- ・月に1回、「校内支援委員会」を開催し、支援方法について話し合ったり、児童の状況に応じ、教育支援員4名の配置を検討したりする場を設けた。

⑤ **成果**

- ・支援の方法(言葉かけや支援の在り方)等を共通理解することで、学校総体として統一した支援を行うことができた。
- ・児童の状況に応じ、教育支援員を柔軟に配置することができるようになった。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**

- ・定期的に、月1回「校内支援委員会」を開催したこと。

⑦ **「校内支援委員会」は、各月の第4週に、校長室にて実施した。**
・委員会メンバーは、校長、教頭、教務、特別支援教育コーディネーター、低中高学年から担当の先生1人。

① **取組み**: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② **取組み前の状況**

・本校独自の授業のユニバーサルデザインを目指した指導案で授業を実践していた。

③ **ワークショップでの意見や要望**

・一斉指導の工夫だけでなく、個別の配慮や個に特化した指導についても分かりやすい指導案の形式が必要。

④ **学校改革プランの取組み内容**

・一斉指導の工夫をまとめた指導案形式である「UD授業の設計カード」だけでなく、個別の配慮や個に特化した指導が充実するための「個別の配慮の設計カード」の指導案形式を考案し、公開授業で活用した。

⑤ **成果**

・どの子どもも「分かる・できる」授業のユニバーサルデザインの追究につながった。
・遅れがちな児童へ、授業中に適時適切な指導や助言ができるようになった。

⑥ **成功の秘訣、課題、反省点**

・児童の実態把握や評価、教科の系統性を把握すること。



「UD授業の設計カード」(左)と「個別の配慮カード」(右)。どの子どもも「分かる・できる」三段構えの指導につながる。

① 取組み: 各種調査の効果的活用と授業研究会による指導力向上

② 取組み前の状況

- ①全教職員の49%が講師である。
- ②教職員の7割が20代・30代の教師である。
- ③6割が教職経験2年以下である。
- ④毎年多くの職員が異動する。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学校としての専門性を高めるために、何ができるか、現在のままで良いのか等課題はある。毎年多数の教師が入れ替わることで難しさを感じる時がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・全教職員の指導力向上を図るため、特別支援教育に携わった経験が浅い教師を対象に中堅・ベテラン教師の専門性を伝える「ARA・SHI基礎講座」を夏期休業中に開催した。

※対象は、特別支援教育校在籍3年未満の職員。講師は管理職を含む5名で、5講座を開講。

⑤ 成果

- ・若手教師にとっては、普段から疑問や悩みを気軽に相談できるようになった。
- ・中堅・ベテラン教師にとっては、人材育成への意欲が高まった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

- ・普段から、若手・中堅・ベテラン教師の役割(教師のキャリア発達)について学校長から話してあったことが、取組意識の高まりにつながった。

⑦



組織の年度当初の状況は、毎年同じ状況であるため、本取組は今後も継続して取り組んでいく予定である。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・児童一人一人の学力差が大きい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・一人一人に確かな学力を身に付けさせたい。
- ・学力差を少なくするための個別指導の時間を十分に確保する。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・一人一人に確かな学力を身につけさせるため、算数科ではすべての学級において少人数指導又はTT(チームティーチング)で指導する体制を取り入れた。

⑤ 成果

- ・算数科における少人数指導又はTTをして、個に応じた指導ができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・学年の実態に応じて、少人数指導またはTTの指導体制を決めている。

⑦

少人数指導
(算数)



個に応じた児童が充実しています。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・児童一人一人の学力差が大きい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・一人一人に確かな学力を身に付けさせたい。
- ・学力差を少なくするための個別指導の時間を十分に確保する。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・一人一人に確かな学力を身につけさせるため、国語や算数で週1回個別指導の時間を確保し、複数指導体制を取るようになった。

⑤ 成果

- ・週1回、確実に個別指導の時間を1時間確保し、複数で指導することができるようになり、個別指導が充実した。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・個別指導の時間は担任外の職員を配置して、複数指導体制を取る。

⑦ 複数指導体制



分からない時は、すぐに先生に質問できる。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・児童の基礎学力を定着させるための体制が整っていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・基礎学力向上のためには朝自習を充実させる必要がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・朝自習の時間において基礎学力の向上を図るため、木曜日の朝自習には担任外の職員も入り、複数指導体制で取り組むようにした。

⑤ 成果

- ・個に応じた指導ができるようになった。
- ・短い時間の朝自習ではあるが、集中して取り組むことができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・全学級を複数指導体制では実施できないので、ローテーションにて実施する。
- ・ローテーションで取り組むため、いつも複数ではないため、定着しづらい。

⑦ 低学年の複数指導



高学年の複数指導

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・教育活動の充実を図るために教室環境整備が必要である。
- ・酷暑時、極寒時の教室環境を改善したい。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・酷暑時の教室環境をできる限り快適にするために、教室に扇風機を設置した。

⑤ 成果

- ・教室(特別教室を除く)に扇風機が設置され、以前に比べ暑さに対する環境が改善された。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・予算要求をしているが、財政的な面で厳しい状況にあるため、引き続き、市教委に教育環境改善の必要性を伝えていく。

⑦

設置された
扇風機



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・教育活動の充実を図るために人的増員が必要である。
- ・人的増員により、より個別の指導を充実させたい。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・各教育活動や個に応じた指導を充実させるために、市教育委員会に支援を必要とする生徒等の状況を説明し理解を求め、支援員(1人)の配置を図った。

⑤ 成果

- ・学習支援員の配置により、各教育活動や個に応じた指導が充実した。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・予算要求はしているが、財政的な面で厳しい状況にあるため、引き続き、市教委に教育環境改善の必要性を伝えていく。

- #### ⑦
- ・県費職員(加配)の申請や市費職員(学習・生活支援)の要望を行う。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・学校での児童に対する言葉づかいが統一されていない部分がある。

③ ワークショップでの意見や要望

・教師の児童に対する言葉づかいを大まかに示してほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・職員の児童に対する言語環境を校内で統一するために、「言語環境6つの視点」を作成し、校内に掲示した。

⑤ 成果

・教師自身が自分の言語や学級の児童の言語環境に気をつけ、授業の中で振り返ることができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・作成した内容を会議で共通理解して、授業研究会でも言語環境について話題にする。

⑦ 職員トイレに掲示



言語環境の整備6つの視点

- ① 教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと。
- ② 校内の掲示板やポスター、児童(生徒)に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること。
- ③ 校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと。
- ④ 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること。
- ⑤ 教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること。
- ⑥ 児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築くこと。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・情報の共有化による授業力向上を図るために、共有フォルダ、データのファイル名の共通理解により、紙媒体と電子媒体双方を集約し、情報を取り出しやすくできないか。
- ・担任の負担軽減を図れないか。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・これまで作成したデータや教材、ワークシート等を保管、活用しやすくするために、保管棚(紙媒体)と共有フォルダ(電子媒体)を作成し情報の共有化を図った。

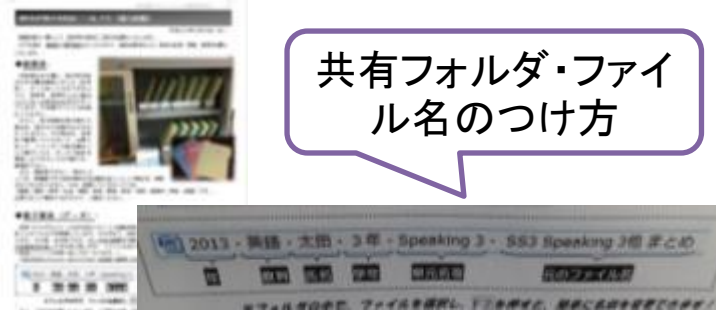
⑤ 成果

- ・保管棚が設置され、常時、各教科で教材等のストックされ充実してきていると同時に、シンクライアントに電子媒体で共有化され、情報の共有化が進んだ。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・電子媒体の集約、データ整理、管理の方法を再確認する。
- ・学年の取組の温度差があり、改善の必要がある。

⑦ 共有フォルダ・ファイル名のつけ方



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・それぞれの学年で教材・教具を作成したものが、単年度のみで使用となり、次に引き継がれていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・教材・教具を整理し、活用しやすい環境にしたい。
・当該学年で使用できる教材・教具の有効な引き継ぎをしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・各学年で作成した教材・教具、ワークシートなどを保管、活用しやすくするために、保管棚を作って、情報の共有化ができるようにした。

⑤ 成果

・保管棚が設置され、各学年の各教科の教材・教具などがストックされてきた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・印刷機の横に棚を設置したことで、保管する意識ができた。

⑦ 印刷機の近くに設置した保管棚



必要な物をすぐに取り出せる。作成したものを保管しやすい。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・授業の教材をコピー等で提示していた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・ICT機器はあるが、場所等が整理されていない。
- ・ICT機器の使い方がわからない

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・授業で、ICT機器を活用するために、保管場所を整理し、すべての職員が使いやすいようにした。

⑤ 成果

- ・ICTの保管場所がわかりやすくなったため、授業での活用が増えた。
- ・児童の学習への意欲の向上が見られた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・職員が授業でICT機器を活用できるように、情報教育担当が研修の場を設けた。
- ・ほとんどの教科でデジタル教科書があるため、電子黒板があるとよい。

⑦

- ・教材をスキャナーで読み込み、印刷する時間が省け、教材研究の時間がとれている。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② **取組み前の状況**
・十分なICT環境がない。

③ **ワークショップでの意見や要望**
・使ってみたいが、操作が難しそう。
・とても便利そうだが、従来の授業スタイルがやりやすい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・ICT環境を整備し、全職員に機器の操作説明会で操作手順を周知して、職員が使いたい時にすぐに使えるよう、タブレットの保管庫を職員室に設置し、貸出方法を簡潔にした。

⑤ **成果**
・4～5台のタブレットが常時使用されている状況である。
・課外や部活動等、授業以外でも活用する職員が増加した。

⑥ **成功の秘訣, 課題, 反省点**
・生徒及び職員アンケートをとって学習効果を検証し、更に活用を進めていきたい。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・ICT機器の活用が不十分であった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・ICT機器を十分に活用していない。
- ・ICT環境(電子黒板、書画カメラなど)の整備をしてほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・町教育委員会主催のICT研修へ全職員が参加し、電子黒板や書画カメラ、タブレットPC等の機器の使用方法を学び、効果的に授業の中でICT機器を活用するようになった。

⑤ 成果

- ・ICT機器を活用し、授業を行うことができた。
- ・児童の主体的な学習につながっている。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・発表の場面など児童自身がICT機器を活用すること。
- ・教師が、積極的にICT機器を活用した授業を行うこと。

⑦



電子黒板を使った学習の様子

4年「月と星」の月の動き方の学習



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・教室の廊下側に教室1つ分の広さのワークスペースがあるが、活用されていなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・どのように活用してよいかわからない。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・国語の授業で活用する教科書に関係する図書室の本を展示したり、支援を要する児童が職員と一緒に安心して学んだりするために、ワークスペースを活用するようにした。

⑤ 成果

- ・図書室に行かずに、平行読書ができるようになった。
- ・支援を要する児童が安心して学習できるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・本校の図書室だけでは本が少なく、町の図書館と連携していく必要がある。

⑦

- ・ワークスペースのテーブルに本を置き、常時、児童が読書できるよう、本の紹介もしている。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・個別の指導を必要としている児童がいるが、十分な指導ができていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・個別指導の時間をもっと確保したい。
- ・担任以外の支援もほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・一人一人に確かな学力を身につけさせるために、担任以外の職員も朝や放課後の「ふれあいの時間」に複数で学習指導に当たる体制を取り入れた。

⑤ 成果

- ・複数体制で学習指導に当たることができ、より個に応じた指導ができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・支援担当者を週案に明記する。



朝の活動や放課後の時間に、担任以外の職員も学習指導に当たる。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・NRT学力検査の結果は、全国標準を少し上回っている。
- ・個人差が大きい。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・個人個人の力をもっと高めたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・これまで担任が行っていた学力定着の時間(ぐんぐんタイム)の指導を、担任外の職員も加わり、複数で指導にあたるようにした。

⑤ 成果

- ・年度末の学力テストで、標準偏差値が前年度を僅かながら上回った。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・担任外の職員も入ったの複数体制での取り組み。(〇付け等)

⑦



学力定着の時間の活用
個別指導の充実

担任以外の職員も入って複数体制で個別指導に当たった。



① 取り組み: 授業実践のための環境整備

② 取り組み前の状況

- ・高学年の学習において、担任の専門性が、授業にうまく反映できない状況にある。
- ・どの職員も多忙感を抱いている。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・交代授業や教科担任制で教師の得意とする教科で子どもたちの学力を伸ばすことができないか。
- ・職員の専門性を生かせないか。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・職員の専門性をいかし指導にあたるために、一部の高学年において、授業の交代を実施した。
5年生では、外国語活動と家庭科の交代授業
6年生では、社会と音楽・家庭科の交代授業

⑤ 成果

- ・職員一人一人の専門性が生かされ、学力の伸びにつながった。
- ・全職員で児童にかかわることができ、児童が落ち着いてきた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・低・中学年にも広げていく。
- ・成果や課題を共有し、取り組みを広げていきたい。

⑦



Open your textbook to page 45.
Are you OK?

野菜を炒めるときには、
堅いものから炒めると
いいみたい。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・学習に使うDVDなどが、バラバラに保管されていた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・どんなものがあるか知らない。
- ・使いたい時にすぐ分かるところに保管してほしい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・使いたい時にすぐに使えるようにするために、職員室に各種DVD等を保管する棚を設置した。

⑤ 成果

- ・使いたい時にどこにあるか分かりやすくなり、DVDの活用が増えた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・職員室の棚を整理することで、活用できるスペースができた。

⑦



職員室の棚の一角を整理し
各種DVD等の保管に活用

何がどこにあるか分かって
使いやすい。
こんなDVDもあったのね。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・児童の考える時間を確保してはいるものの、やり方は様々であった。

③ ワークショップでの意見や要望

・児童の考える時間や方法をどう確保・工夫していくか。

④ 学校改革プランの取組み内容

・児童が考える時間を確保し表示するために、タイマーを活用するようにした。

⑤ 成果

・考える時間をあらかじめタイマーで設定することで、時間を有効に利用できるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・本年度の校内研究の重要な取組みとして共通理解・共通実践ができた。

⑦



タイマーを利用して
考える時間を無駄なく確保

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・授業後の復習(宿題や自学ノート)以外の繰り返し学習(単元毎やテスト毎の復習)が不足している。

③ ワークショップでの意見や要望

・生徒が復習のポイントを確認する場や、何度も見返す機会を作る必要がある

④ 学校改革プランの取組み内容

・各学年の廊下に5教科(国理英社数)の学習コーナーを作成し、各教科担当者が、授業のポイントや定期テストに向けての重要事項等を掲示するようになった。

⑤ 成果

・このコーナーが復習の場として生かされている。
・テスト前には答を確認したりノートに書き写したりする生徒の姿も見られるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・掲示した内容を定期テストに出題した。
・掲示物を適時貼り替えなければ、生徒の関心を保つことが難しい。

⑦



廊下に作った学習コーナー

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・言葉の荒れが目立つ。
- ・自己有用感の低い児童が多い。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・自己有用感を高める取組みが必要である。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・自己有用感を高めるために、毎月3日～9日に設定した「ありがとう(3・9)の日」に校内3箇所に掲示した「ありがとうの木」に、感謝のメッセージ書いて、貼るようにした。

⑤ 成果

- ・児童が他の児童へ、感謝する気持ちを表すことができるようになり、自己有用感を高めることができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・期間を限定(3日～9日)することで、児童の意識も高まった。
- ・お昼の校内放送でも紹介することで、児童の意識を高めることができた。

⑦ 「ありがとうの木」に貼られたメッセージ



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・専門教科はICT機器が設置された特別教室があるが、普通教科はICT機器がすぐに使える教室がない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・実物投影機、プロジェクターを各教室に設置してほしい。
- ・普通教室でもICT機器を十分に使いたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・第1講義室と第3講義室にプロジェクターと実物投影機を設置し、第1講義室は黒板からホワイトボードに取り換えた。

⑤ 成果

- ・機器の環境を整えたことで、効率よく活用できるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・新たな予算はなく、学校の予算内で購入した。
- ・PCを常設したい。



ホワイトボード、実物投影機
プロジェクター



実物投影機、プロジェクター

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・ICT機器が導入されたが、十分に活用されていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・機器の効果的な使い方がわからない。
- ・児童用ノートパソコンが使いづらい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・タブレットPCや電子黒板を活用するために、ICT機器を活用した取組や活用法の研修会を実施した。

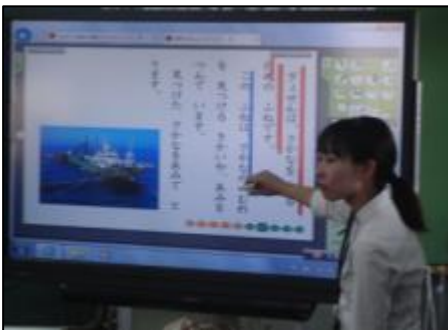
⑤ 成果

- ・効果的に電子黒板やタブレットPCなどを活用して授業をしている。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・定期的に活用し、好事例を紹介し合う機会を設定する。

⑦



教師による電子黒板の活用



体育の授業における児童のICT活用の様子



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・児童の考えを発表するときに、言葉だけでは伝わらないことがある。

③ ワークショップでの意見や要望

・児童の考えをまとめ、整理した上で、みんなに伝えるために、「可視化」、「見える化」が必要。

④ 学校改革プランの取組み内容

・児童の考えをまとめ、整理した上でみんなに伝えるために、授業中、実物投影機等のICT教材の活用を取り入れた。

⑤ 成果

・児童の考えの根拠になったものを、学級全体で共有することができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・ICT機器が、各学級1台ではなく、整備状況が十分でない。

⑦

5年図形
「図形の角を調べよう」
多角形について
学習している
場面です。



① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

・校内研修における部会ごとの役割分担が明確ではない。

③ ワークショップでの意見や要望

・部会ごとの仕事が明確ではなく、何をしてもよいかわからない。

④ 学校改革プランの取組み内容

・校内研修における部会の役割の明確化を図るために、部会の見直しを行った。

⑤ 成果

・各部会の担当者および仕事内容が明確になった。
・部会を見直したことで、校内研究を円滑に進めることができた。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・部会での話し合いを密に行い、校内研究の活性化を図る。

⑦

- 調査・評価部会
 - ・児童、保護者、教師の変容調査、(アンケート作り、提案、アンケート集計、考察)
 - ・研究のまとめ
- 日常活動部会
 - ・朝活動の計画実施
 - ・基本的学習習慣の徹底
 - ・家庭学習の充実
- 環境・設営部会
 - ・校舎内外の学習しやすい雰囲気を作るための環境設営企画(学習パネル、学習コーナー、掲示物の整理・整頓等)
 - ・学習環境の統一

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・学力の個人差があり、個に応じた支援体制が必要である。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・複数体制で指導ができる体制を整える。
- ・基礎基本の確実な定着を目指していきたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・生徒に基礎基本の定着を図るために、教科担当だけでなく、学習サポートをしていく先生を複数にし、TTで指導をしていく教科を増やした。

⑤ 成果

- ・週当たり約5～6時間のTTでの指導時間が増加し、授業中の生徒への個別指導ができるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・空き時間の先生がTTで指導をしていくようにした。
- ・生徒の実態を把握し、職員間で共有していくために、コミュニケーションを密にした。



複数体勢で支援にあたることで、生徒へ関わる時間が増えている。また、わからない生徒への個別の対応ができた。

① 取組み: 授業実践のための環境整備

② 取組み前の状況

- ・発表や資料提示がわかりにくい。
- ・視聴覚機器の効果的な活用に自信がない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・各教室で使える視聴覚機器の整備をしてほしい。
- ・視聴覚機器の効果的な活用を図りたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・各教室でTV、PCが活用できるよう機器整備を行い、授業で視聴覚機器を活用するようにした。

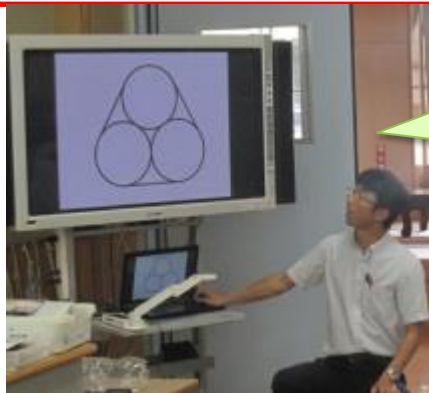
⑤ 成果

- ・生徒の発表や資料の提示が全体にできるようになった。
- ・教師の教材開発の幅が広がった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・授業での効果的な活用のために、研修をしていく必要がある。
- ・ICT活用の研修に積極的に参加する。

⑦



全体に教材提示がしやすくなった。

発表の時には自分がかいたプリントを直接説明できる。



① 取り組み: 授業実践のための環境整備

② 取り組み前の状況

・これまで教材開発に多くの時間を費やしていた。また、作成した教材をお互いにシェアすることはあまりなかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・子どもの障がい特性に応じた効果的な教材を、教師間でシェアできるようにになれば、組織としての専門性はより高まるのではないか。

④ 学校改革プランの取り組み内容

・ICT機器の効果的な活用のために、本校におけるICT機器の授業場面での活用の実態を把握し、ICT研修会を実施し、タブレットPCおよび周辺機器を増やした。

⑤ 成果

・これまで以上に、一人一人の障がい特性に合わせた指導・支援ができた。
・一つの教材準備にかかる時間が削減でき、その分の時間を他の授業準備の時間に当てられるようになった。
・教材を誰でも自由に使用できるようになった。

⑥ 成功の秘訣、課題、反省点

・実態把握や研修会等、大学や企業と連携し実施することができた。
・教材をみんなでシェアするには、教職員の意識の転換が必要で時間がかかるため、焦らないことが大事。

⑦



タブレットPCは、自由に位置が変えられるので、アプリでの学習効果だけでなく、「見やすさ」の点でも効果がありました。



① 取組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取組み前の状況

・家庭学習(自主学習)が形骸化しつつある状況で、その効果に疑問があったため、計画的に全員が同一内容で取り組めるノートが作成できないか。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取組み内容

・生徒全員が計画的に同一内容で家庭学習に取り組むために、「小川中学校版家庭学習(自主学習)ノート」を作成し活用した。

⑤ 成果

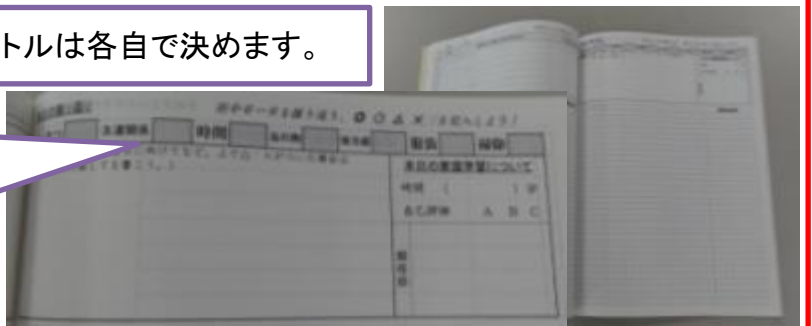
・学校独自の自主学習ノートと学習内容の指示による家庭学習の充実が図られた。
・学習だけでなく、生活や友人関係などの状況も把握もできるようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・帰りの会で家庭学習の計画と教科連絡で次時の内容、目標を伝達する。
・家庭学習は曜日毎に取り組む教科を指定している。
・先を見通した学習内容の計画が必要。

⑦ ノートのタイトルは各自で決めます。

学習だけでなく生活や友人関係も振り返ります。



① 取組み: 家庭学習のあり方と地域連携

② 取組み前の状況

- ・児童の基礎学力を定着させるための体制が整っていない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・学校支援地域本部事業のコーディネーターと連携し、授業見守りや丸付けのボランティア活用を充実できないか。

学校改革プランの取組み内容

④

- ・個に応じた指導を充実させ児童の基礎学力を定着させるために、学力充実タイム等で地域の学習支援ボランティアや大学生のボランティアを活用した。

⑤ 成果

- ・学力充実タイムでは、より多くの問題に取り組みさせることができるようになった。
- ・授業では、学生ボランティアに質問をする児童が増え、個に応じた指導が充実した。


⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・校内のコーディネーターを位置づけることが必要。

⑦



学生ボランティアによる学習支援



学生ボランティアによる丸付け

① 取り組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取り組み前の状況

- ・学校統合したばかりで、学校応援団の活用が、十分になされていない。
- ・学校統合に伴い、校区がかなり広くなり、地域の学校という意識が薄い。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・外部人材を活用することで、さらに開かれた学校づくりに努めたい。
- ・ゲストティーチャー(GT)を活用することで、勤労観などの意識を高めたい。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・開かれた学校づくりを推進するために、読み聞かせをしたり、九九や音読を聞いてもらったりするボランティアを募り、地域の学校応援団を増やした。

⑤ 成果

- ・外部人材を積極的に活用することで、地域の学校としての意識が高まった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・総合的な学習の時間等に、積極的にGTを活用する。
- ・地区振興会と連携を図る。
- ・外部人材の人選や確保が難しい。

⑦



読み聞かせ
ボランティア



みそづくり
(GTの活用)

① 取組み: 家庭学習のあり方と地域連携

② 取組み前の状況

・「家庭学習の手引き」を作成し配付しているが、各家庭での状況が把握できていない。

③ ワークショップでの意見や要望

・家庭学習への取組を充実させたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・「家庭学習の手引き」を4月の家庭訪問で説明したり、月に1度アンケートを実施し、家庭学習の状況を調査したりして、家庭への啓発を強化するようにした。

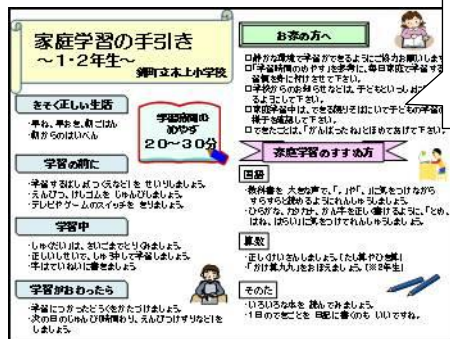
⑤ 成果

- ・各学級で状況を把握し、指導することができた。
- ・家庭学習の時間が増えてきている。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・家庭訪問で、直接保護者に啓発できたこと。
- ・具体的な取組状況を把握できたこと。
- ・調査結果を指導に生かす。

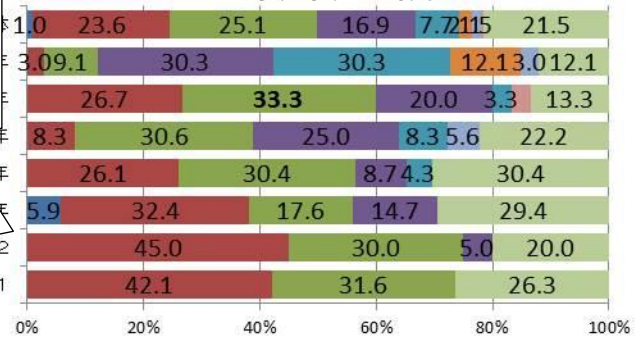
⑦



家庭訪問で、保護者に内容を説明して配付した。

各学級の結果を分析し、指導に生かすことができた。

(家庭学習の時間)



① 取組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取組み前の状況

- ・帰りの会時に、その日の授業の復習を自主学習ノートに行わせていた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・ノートの提出や帰りの会時の取組が徹底していない。
- ・家庭学習の質に課題がある。

④ 学校改革プランの取組み内容

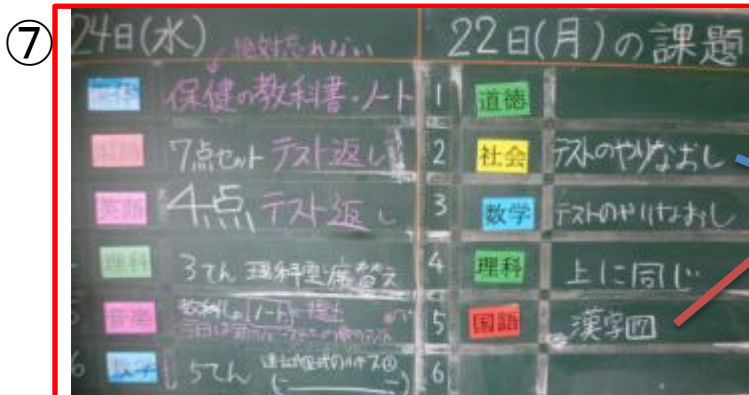
- ・全学級で帰りの会時の自主学習の実施時間を最初の5分間に統一し、家庭学習の質を上げるために、各教科で具体的な課題を出し、連絡黒板に板書するようになった。

⑤ 成果

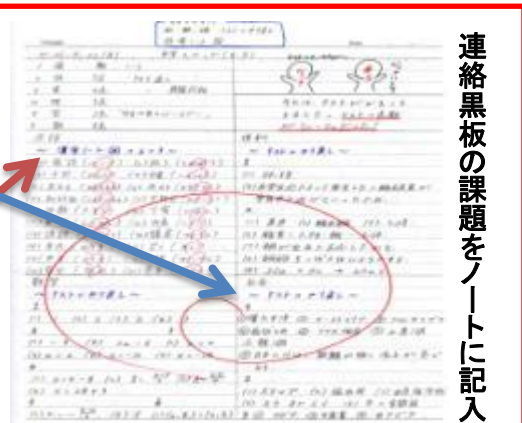
- ・自主学習ノートの質が均一化してきた。
- ・取組が不十分だった生徒の復習の質が向上した。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・5分間の取組の開始・終了を生徒会が放送と各学級で呼び掛けた。
- ・授業の終了時に、教師が自学の課題を伝えるようにした。
- ・学級担任は課題を把握し、家庭学習の指導に生かすことにした。



連絡黒板に書かれた家庭学習の課題



連絡黒板の課題をノートに記入

① 取組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取組み前の状況

・家庭学習について、課題の出し方についての共通理解は特になかった。

③ ワークショップでの意見や要望

・家庭学習の習慣が身に付いていない児童を何とかしたい。

④ 学校改革プランの取組み内容

・家庭学習の内容や量、家庭学習の手引き等の再検討を行い、PTA全体会や学級懇談会、学級通信等で家庭への啓発を行った。

⑤ 成果

・家庭への協力依頼を根気よく続けたことで、ほとんどの児童が提出するようになった。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・家庭学習の手引きは研究発表会を機に見直し、共通理解ができた。

⑦ 家庭学習の手引き



PTA全体会での保護者への啓発



① 取り組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取り組み前の状況

- ・家庭学習(自主学習)ノートの取組が形骸化しつつあったので、1年生では全員が同一内容で取り組めるノートを作成。
- ・他学年では、生徒が準備したノートを使って取り組んでいた。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・課題は同じだが、内容に個人差がある。
- ・課題がない学年では、自学で何に取り組めばよいかわからない生徒が見受けられる。

④ 学校改革プランの取り組み内容

- ・家庭学習を充実させるために、課題を提示し、家庭学習の手引きを掲示・配布したり、ノートの取組例や良く取り組んでいる生徒のノートを掲示したりした。

⑤ 成果

- ・課題を提示することで、スムーズに自主学習に励む生徒が増えた。また、課題と授業がつながっているので復習としても取り組めるようになった。

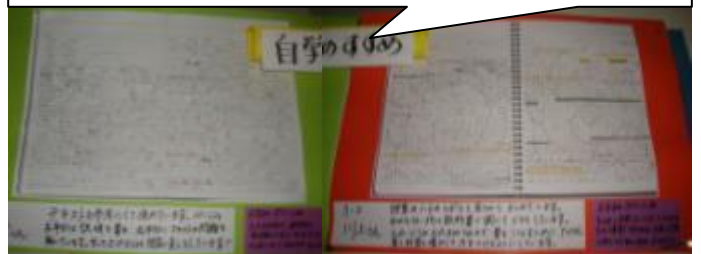
⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・小中連携の一環で、小6から自主学習ノートに取り組んでいる。
- ・教科連絡や家庭学習計画の確実な記入の徹底の必要がある。
- ・家庭学習とノーメディアデーを連動させた取組をするために保護者と連携する。
- ・中学校区内での、さらなる連携・継続した取組が必要。



ノーメディアデー
の掲示

家庭学習(自主学習)ノートの良い例の掲示



① 取組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取組み前の状況

- ・児童の基礎学力に個人差が見られる。
- ・基礎学力定着のための時間が確保できない。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・基礎学力をつけるための時間を設定する必要がある。
- ・丸付けのためのボランティアなど地域の方々への呼びかけが必要。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・基礎学力の向上を図るために隔週で1時間「学力充実タイム」を設定し、地域の方々や町の教育委員会へ協力を要請し、丸付けなどの支援をしてもらうようにした。

⑤ 成果

- ・漢字の読み書きや計算力が向上している。
- ・基礎学力の個人差が徐々に解消されつつある。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・地域の方々や教育委員会に丸付けを協力していただいたこと。
- ・事前に年間計画を伝え、計画通り実施できたこと。

⑦

「学校応援団」の方々による丸付けの様子



① 取組み: 家庭学習の在り方と地域連携

② 取組み前の状況

- ・地域との連携が不十分。
- ・時数確保が厳しい状況。

③ ワークショップでの意見や要望

- ・土曜授業を実施したい。
- ・学力充実のために、時数を生み出したい。

④ 学校改革プランの取組み内容

- ・学期に1回「土曜授業の日」を設定し、学校と地域の方々が協力して行事等を行えるようにした。

【1学期「交通教室」】

【2学期「地域の方との昔遊び」】

【3学期「文化祭(学習発表会)」】

⑤ 成果

- ・交通教室では、地域の方々に校外の横断歩道に立ってもらい協力していただいた。
- ・昔遊びでは、地域の方々に竹馬ののり方など教えていただいた。
- ・文化祭では、児童の発表や地域の方々の作品(書道など)展示を行った。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

- ・学校応援団、老人会などを中心呼びかけをした。
- ・外部との交渉が大変である。

⑦



「地域の方との昔遊び」でお手玉を習っている様子

「文化祭」では、地域の方々の書道などの作品を展示



① 取り組み: その他

② 取り組み前の状況

・学習意欲にあふれ、「学校行事・部活動に完全燃焼する生徒」を育成し、「夢の実現を目指す人」づくりに向けた生徒の意識改革につなげる機会の設定。

③ ワークショップでの意見や要望

④ 学校改革プランの取り組み内容

・生徒の学習意欲喚起に向けた魅力的な取組を推進するために、「野口みずき講演会、トークショー」を開催した。

⑤ 成果

・オリンピック金メダリストが直接語る言葉に大きな刺激を受けた。
・ワークショップ型のトークショーを通じ、能動的な態度が育成された。

⑥ 成功の秘訣, 課題, 反省点

・トークショーコーディネーターとの綿密な事前打ち合わせにより、本事業の趣旨を踏まえた効果的な実践ができた。

⑦

